

令和6年度(2024)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立今市小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 国語科では、5年生は全国、市平均と同程度だが、4・6年生は市・県・全国平均を大きく上回った。
○算数科では、4年生は市、全国平均をやや上回り、5年生は市、全国平均と同程度であった。6年生は市・県・全国ともに平均を大きく上回った。
- 一定の時間に多くの文章を読み、問いに答えるという力に課題が見られ、問題に慣れる経験が必要である。
 - 記述したり、説明したりする回答に課題があり、必要な情報を読み取る力に弱さが見られる。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○ほとんどの項目で、全国平均正答率を上回るか同程度の結果であった。2段落構成で文章を書くこと、理由や事例を明確にして文章を書くことについては、全国平均正答率を著しく上回った。 ●中心となる語や文を見つけ要約することについては、全国平均正答率より上回ったものの、無解答や誤答が多かった。	□時間、字数、段落等の条件付けをして書くことの経験を積んだことで、安心して解くことができたと考ええる。引き続き、チャレンジ項目等も設けて、やる気高め、より高い学力の育成を目指す。 □大事なことを端的に伝える力や読み取ったことを要約したりする力をつけるために、「つまり」「だから」「短く言うと」等の言葉を使い、1番大切なことを落とさない力をつけていきたい。
	5年	○ほとんどの項目において、全国の平均正答率を上回った。 ●条件に沿った文章を書いたり、端的に書いたりすることに課題がある。 ●問題の読み取りが十分でなく、問われていることを正確に理解しないまま解答している。(連体・連用修飾語) ●長い文章を読み題意を把握することに時間がかかるため、問題に取り組む時間が少ない。	□条件付き、または端的に表す文章を書くことの経験を重ねる。 □主語や述語、修飾語を正しく捉えるために、練習問題に取り組む。
	6年	○ほとんどの項目について全国の平均正答率を上回った。 ●複雑な文字情報を理解しながら読むことにやや課題がある。 ●一定時間内に多くの文章を読むことにやや課題がある。 ●漢字の書き取りの無解答率が他の問題より割合が高い。	□様々な形態の文章や情報を読む機会をもち、読むことに慣れるようにする。 □複数の文章を読んで、自分の考えを表現する機会をもつ。 □日常的に既習漢字を使うことを意識させる。
算数	4年	○ほとんどの項目で全国平均正答率を上回るか同程度の結果であった。 ○基礎的な四則計算において正答率が高い。 ●小数の相対的な大きさの理解について課題がある。 ●棒グラフから必要な情報を記述解答する問題に課題が見られる。	□授業の中で、問題を式や図と関連付けて考え、算数用語を用いて説明する力を高めていく。 □具体的な操作活動を通して、量感をつかめる経験をつませ、実生活にあるものと結び付けられるようにする。
	5年	○「計算の順序」は、全国の平均正答率を大きく上回った。 ●身近な面積を類推することに課題がある。 ●「以下・未満」など、用語が示す概念を理解できていない。 ●グラフを読み取る力、それを言語化して表現することに課題がある。説明する問題については無解答率が非常に高い。	□算数用語について、繰り返しおさえ、理解を確かなものとする。 □様々な活用問題や出題方法の問題を解き、自分の考えを言葉や数、式を使って表現する経験を積ませる。
	6年	○ほとんどの項目で、全国の平均正答率を上回るか同程度の結果であった。特に、比例の関係がよく理解できている。 ●表やグラフから必要な情報を読み取って分類整理したり、条件に当てはまることを求めたりする問題に課題が見られた。	□文章問題の主語や関係性がわかるように図式化させたり、立式した理由や式が表すものを説明したりする機会を継続してもつ。 □説明する時は、式を用いてすっきりとわかりやすく説明しているかを評価する。 □低学年のうちから、生活の中の身近なもの・ことを用いて量感をつかませたり、適当な単位を考えさせたりする。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○先生や友達の話をしっかり聞きノートをとっていると感じている ○「先生は、間違えたところや分からないところについて、分かるまで教えてくれている」と感じている児童が多い。 ○タブレットの活用については、楽しみながら学習を進めること、画像・音声・動画等で学習の理解が深まることについては肯定的な回答が多いが、自分のペースで学習を進めることについては肯定的な回答が低い。 ●新聞記事などを自分の考えと比べながら読んでいる児童が少ない。 ●分からないところを質問をしたり答案を見直したりする力が弱い。	□新聞記事の読み取りワークなどを意図的に利用する □ICT機器を積極的に活用し、正しい情報選択の力や問題解決の力をつける。 □ICT機器活用を促進するため、基礎的なスキルの向上を図る。 □児童自ら学びとることのできる授業展開をICTを利用して意図的に仕組んでいく。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○宿題にきちんと取り組むことができる児童が多い。 ●国語算数において「返された答案は見直している」と回答している児童が全国平均を下回る。 ●学習に辞書やICT機器を活用する力が弱い。 ●学習内容を見直したり、学んだことを次の学習に生かしたりするなど、自分から考えて取り組む姿勢が低い。	□タブレットドリル、計算ドリルなどの問題に取り組み、問題慣れできるようにする □発達段階に応じて、タブレットPCの持ち帰りや、タブレットPCを使った学習を計画、実行する。 □一度解いた問題に取り組むことで、学習内容の定着を図る。 □授業で行っている内容と家庭学習の内容との関連を図り、主体的な学習者を育成する。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「自分が住んでいる地域が好きである」と回答している児童の割合が多い。 ●自分の勉強の計画を立てたり、決められた場所で学習したりする児童が少ない。 ●「地域の行事に参加している」と思っている児童の割合が、全国平均を下回っている。 ●「将来の夢や目標を持っている」という割合が、全国より低い。	□学習計画表を自分で作るなど、見通しをもって学習に取り組むことができるようにする □身近な事象や地域の課題を学習課題とし、自分の考えをもつことができる学習の機会をつくる。 □総合的な学習の時間や国語科の学習を中心に、地域とのかかわりに目を向けるような単元構成を計画的に行う。

令和6年度(2024)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立大津小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 4年生の国語の平均正答率は、出雲市平均正答率と同程度だったが、全国平均正答率を大きく下回った。
- 4年生の算数の平均正答率は、出雲市平均正答率と同程度だったが、全国平均正答率をやや下回った。
- 5年生の国語の平均正答率は、出雲市平均正答率と同程度だったが、全国平均正答率をやや下回った。
- 5年生の算数の平均正答率は、出雲市平均正答率をやや上回り、全国平均正答率と同程度だった。
- 6年生の国語、算数の平均正答率は、島根県、全国平均正答率ともに同程度だった。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○「話し合いの内容を聞き取る」問題では、全国平均正答率を大きく上回った。 ○「漢字を書く」問題では、全国平均正答率を大きく上回った。 ●「漢字を読む」問題では、全国平均正答率を大きく下回った。 ●「文章を書く」問題では、目標値を大きく下回った。	□漢字の読みを確認するテストを行う。 □条件をつけたり、段落の構成を意識したりして作文する機会を設ける。 □自分の書いた文章を推敲させたり、書き直したりする習慣を身に付けさせる。
	5年	○漢字の読み書きは習熟が図れている。 ●修飾語の使い方や意味理解に課題がある。 ●条件を指定された上で文章を書くことに課題がある。 ●問題の文章を読むことに課題がある。	□修飾語の使い方や意味理解(連用修飾語と連体修飾語の違い等)について、再度教える時間を設ける。 □日ごろから条件を意識して文章を書く経験を増やす。 □新聞記事や辞書を活用する時間を設けたり、音読・視写・暗唱の充実を図ったりし、活字を追う力(追視能力)を付ける。
	6年	○日々の学習の中でウェビングマップをもとに文章を書く経験が積めているため、「書くこと」の正答率が全国平均正答率をやや上回った。 ●複数の資料から情報を取捨選択することや、問題文や選択肢の読解力に課題がある。 ●条件に合わせて書くことに課題がある。	□新聞ワークに取り組み、活字や長文に慣れる。 □条件に合わせて文章を書く時間を設ける。
算数	4年	○かけ算の筆算の意味を理解している。 ●基礎的・基本的な内容の定着に課題がある。 ●物の重さ等の量感と単位の結び付きに課題がある。 ●自分で考えた解き方を、文章にすることに課題がある。	□既習内容を、もう一度解いてみることで、内容の定着を図る。 □実際に具体物を用いて量感を養う活動を取り入れる。 □解き方を文章化する経験を積ませる。
	5年	○どの領域でも基礎・基本が定着している。 ○思考・判断・表現が目標準や全国平均正答率をやや上回った。 ●「変化と関係」の領域において、2つの数量を比べて考える問題の正答率が約5割。 ●億や兆などの大きな数を表すことや、作図に課題がある。	□授業の中で、大きな数を取り扱ったり、実生活との関連問題を取り扱ったりする。その際、数量を見比べ、関係性を整理したり、分析したりする。 □単元終了後も、継続して復習する機会を設ける。
	6年	○無回答が少なく、問題を解決しようとする意欲がある。 ○基礎・基本的な学力がついている児童が多い。 ●問題場面の数量関係を捉えることに課題がある。 ●与えられた情報を整理し、問題の意味を正確に捉え、順序立てて説明することに課題がある。	□授業において、図や数直線を使った説明の機会を増やす。 □文章題で読み取ったことを自分の言葉で説明する活動を設定する。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○予習や復習をしている児童が多い。 ○話し合いで積極的に話したり、聞いたりしている児童が多い。 ○改行等、形式を工夫して文章を書いている児童が多い。 ●授業の中で分からないことを質問する児童が少ない。 ●授業でのタブレット活用頻度が低い。	□学習内容を理解できているかどうか確認する時間を設け、質問しやすい雰囲気をつくる。 □教職員に向けてタブレット活用研修を行う。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○自分で寝る時刻やテレビを見る時間を決めている児童が多い。 ○自分で勉強の計画を立てて勉強している児童が多い。 ●辞書を活用したり、家で本や新聞を読んだりする児童が少ない。	□辞書の活用や、本や新聞を読む宿題を出したり、自学のメニューに加えたりする。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○家の人との約束やきまりを守っている児童が多い。 ○県や全国平均値と比べて、1日あたりの携帯電話・スマートフォンでSNSや動画視聴の時間がとても少ない。 ●地域の行事に参加する児童が少ない。 ●休みの日の学習時間について、県や全国平均値と比較すると、1時間以上学習している児童は多いが、4時間以上学習している児童は少ない。	□地域行事への参加の呼びかけや、地域講師の活用等を行い、地域との連携を深める。 □1か月に1回行っている生活習慣調査に学習時間の目標を記入する。

令和6年度(2024)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立塩冶小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

第4学年の市学力・学習状況調査 ○国語・算数ともに市の平均正答率をやや上回っている。 第5学年の市学力・学習状況調査 ○国語・算数ともに市の平均正答率と同程度である。 第6学年の全国学力・学習状況調査 ○算数は、県の平均正答率と同程度である。 ●国語は、県の平均正答率をやや下回っている。 本校の学力向上に関する取組との関連 ○特に第4・5学年の国語科においては、段落分け等の条件に合わせて短文を書くことが全国正答率を大きく上回っている。短作文を書く取組を継続して行っていることの成果と考える。
--

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○条件に合わせて自分の考えを書くことについては、全国の正答率を大きく上回っている。 ●説明的文章の中から中心となる語や文を見つけて要約することについては、目標値を大きく下回った。 ●複数の資料を見比べて、必要な記述を取り出して書くことに課題がある。	□短作文を書く取組を今後も継続し、自分の考えを書く力のさらなる向上を図る。 □文章の内容を適切にとらえるために、「要約する」学習活動を国語科の授業において取り入れ、中心となる語や文に着目する力を高める。 □さまざまな教科・領域の学習において、資料を読み取る経験を重ねる。
	5年	○条件に合わせて自分の考えを書くことについては、全国の正答率を大きく上回っている。 ○物語文の叙述をもとに人物の心情をとらえること、読み取ったことを伝え合う設問では、全国の正答率を上回っている。 ●修飾語のはたらきをとらえることについて、課題がある。 ●複数の資料を見比べて、必要なことを取り出して書くことに課題がある。	□叙述をもとにした対話的な学びを継続し、互いの考えを共有する経験をさらに積み上げる。 □さまざまな教科・領域の学習において、資料を読み取る経験を重ねる。 □AIドリルを活用し、文法などの言葉の学習の復習を重点的に行う。
	6年	○物語文の読解において、叙述から人物像を読み取る際の着目点をとらえる問題では、全国の正答率を大きく上回っている。 ●同音異義語の書き取りについては課題がある。 ●複数の資料を関係づけ、伝えたい内容に合わせて選択することについては課題がある。	□はたらかせたい「見方・考え方」を明確にした授業づくりを継続する。 □AIドリルを活用し、同音異義語などの漢字の学習を進める。 □新聞シート等、さまざまな資料にふれる経験を重ね、資料を読み取ったり、自分の考えの根拠を明確にしたりする力を高める。
算数	4年	○図形・測定領域全体で、全国の正答率を上回っている。 ●計算領域全体で、全国の正答率をやや下回っている。くり上がりやくり下がりのある筆算など、基礎的な計算技能の定着が課題である。	□小数や分数の学習では、図や線分図、数直線を使い、量感を意識しながら数をとらえることができるようにする。 □「もともになる数のいくつ分」という考え方を定着し、かけ算やわり算の式が表す内容を具体的に思い浮かべて思考できるようにする。 □AIドリルを積極的に活用して個々に応じた課題に取り組むようにし、基礎的な計算技能を定着する。
	5年	○小数の基礎的な問題や計算のきまりの問題、折れ線グラフと表についての問題では、全国の正答率を大きく上回っている。 ●分数の基礎的な知識・技能に課題がある。 ●大きな数の概数の表し方や相対的な大きさの理解について課題がある。	□分数の学習では、帯分数・真分数・仮分数の理解を復習しながら、計算技能を高めるようにする。 □大きな数の概数を用いた資料を活用して、概数の理解を深めるようにする。 □AIドリルを活用して、基礎的な四則計算の技能の定着を図る。
	6年	○計算の仕方を考察し記述する問題や図形領域についての知識・理解を問う問題では、全国の正答率を上回っている。 ●除数が小数である除法の計算や速さの意味を問う問題など、基礎的な知識・技能の定着に課題がある。 ●「変化と関係」の領域の問題では、全国の正答率を大きく下回っている。	□小数の乗法・除法などの基礎的な計算の技能について、AIドリル等を活用し定着できるようにする。 □「速さ」の学習の復習をドリル等を用いて行い、知識・技能の定着を図る。 □「変化と関係」の学習では、図を活用し視覚的に数量の関係が理解できるようにする。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「話し合いで、自分の考えを積極的に話したり相手の話をしっかり聞いたりすること」の設問に対する肯定的回答率が高く、進んで話し合いに関わろうという意欲をもっている。 ○「伝えたいことを明らかにして、文章を書いている」との肯定的回答率も高い。 ●「分からないことがあれば、先生に質問をしている」の設問に対する肯定的回答率が全国の平均を下回っている。	□対話的な学びをさらに充実させるために、発問の精選やICTの活用を図る。 □質問する機会を十分に確保し、分からないことはそのままにせず解決しようとする意識の醸成を図る。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○「自分で計画を立てて学習をしている」の設問に対する肯定的回答率が高い。 ○「勉強にパソコンを利用している」の回答率が全国平均を大きく上回っている。 ●携帯電話を使用してのゲーム・SNS動画視聴の時間が長い。 ●「新聞記事を読んでいる」「本を読んでいる」と回答した児童の割合が、いずれも全国平均を下回っている。	□「家庭学習の手引き」に基づき、自主学習の取組を推進する。学んだことを活用したり、自分の強化したいことを見つけたらして自主学習ができるよう、呼びかけを積極的に行う。 □タブレット端末を活用した学習（デジタルドリルなど）をさらに進めていく。 □メディア機器の利用については、家庭との連携を図り、適切に使うことができるように指導する。 □新聞記事や図書を活用した学習を取り入れる。また、学習に関連する図書の紹介を行ったり、家庭読書の取組を継続したりして、児童の読書意欲を高める。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「自分が住んでいる地域が好きである」という設問への肯定的回答率が高い。 ●「地域の行事に参加している」児童は、全国平均を大きく下回っている。 ●朝食をとらない児童の割合が高い学年がある。	□生活科や総合的な学習の時間等で地域の「ひと・もの・こと」を積極的に活用し、地域への関心や愛着を高める。 □児童の学力向上のために、望ましい生活習慣づくりや、家庭学習の状況に目を向けていただくように、積極的な働きかけを行う。

令和6年度(2024)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立神戸川小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 4年生国語は市平均正答率をやや上回っている。
- 4年生国語は全国平均正答率をやや下回っている。
- 4年生算数は市平均正答率を上回り、全国平均正答率をやや上回り、おおむね良好な状況である。
- 5年生国語は市平均正答率と同程度である。
- 5年生国語は、全国平均正答率をやや下回っている。
- 5年生算数は市平均正答率と同程度である。
- 5年生算数は全国平均をやや下回っている。
- 6年生国語は市、県、全国平均正答率を上回り、おおむね良好な状況である。
- 6年生算数は市、県、全国平均正答率を上回り、おおむね良好な状況である。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○「話すこと・聞くこと」の領域の正答率が、目標値に達している。 ●「へん」の理解に課題が見られる。 ●問題文の読解に時間がかかっている。 ●条件に合わせた記述をする経験の少なから、記述で回答する問題になると正答率が下がる傾向がある。 ●情報と情報との関係をつなげたり、とらえたりして考えることが難しさが見られる。	□「へん」のもつ意味を漢字の学習に合わせて指導していく。授業のはじめやモジュール学習で「へん集めゲーム」など遊びの中で自然と触れることができるように工夫をする。 □週末の作文指導に加えて、短作文指導に取り組んでいく。「書いてみたい」「面白そう!」「これならできそう!」と児童が「表現する(書く)こと」に楽しみながら向かえる短作文に取り組むことで、文章の構成や段落の作り方など、作文の基本に多く触れ、「書く力」を伸ばしていく。
	5年	○書くこと分野で特に学習内容の定着が見られる。 ●話を聞く力、読み取りの力に課題がある。 ●問題文の言葉の理解、語彙力に課題が見られる。 ●文章問題で、必要な情報を採ることに難しさが見られる。言葉が変わっている問題の情報を整理することに課題がある。	□話を聞く時に日頃から5W1Hを意識させる。話す時にも全部読み取らず自分の言葉で話せる癖付けをする。また、教師が学習用語を意図的に使う。 □文章問題の読み取りの力をつけるために、学年にあった本を読むよう声かけをする。初めて読む文に慣れるために短い文の問題に取り組むことを継続的に行う。
	6年	○読むこと分野で特に学習内容の定着が見られる。 ●会話文(チャット形式)の内容が読み取ることに課題が見られる。 ●選択肢の文章の主語、述語など読み取りをしないうちに答えている傾向がある。 ●条件付きの文章を書くことに難しさが見られる。	□テキスト化された会話文などの読み取りの練習をしていく。 □サイドラインを引いて文章を読むなどの読み取りの技術を身に付けていく。 □条件付き文章の練習をしていく。
算数	4年	○すべての領域で正答率が目標値に達している。 ●わり算の計算に課題がある。 ●□をつかった計算に課題がある。 ●g,kg,tの量感覚に課題がある。	□基本計算(四則計算)の習熟をはかっていくために、たす、ひく、かける、わるが「どんな計算なのか」の意味理解の面がとらえられるように指導をしていく。(ただ単に計算ができれば良いということに注力しない) □問題場面を立式する前に、問題場面を具体的にイメージする(テープ図やイラストなど)ことに重点をおいた指導に努める。 □具体物を操作する活動を取り入れたり、予想を立てて実際に計測したりする。生活場面とつなげていけるように指導をする。
	5年	○小数や図形の基礎的な学習内容の定着が見られる。 ●割り算に課題がある。 ●面積の問題や変わり方調への問題に課題がある。検討をつけたイメージしたりすることに難しさが見られる。	□割り算の問題を1日1問取り組んだり、間違えた問題の直し方の定着などを繰り返したりする。 □面積の問題では、具体物を使って感覚を身につけさせたり生活の中のもの結び付けたりしてほしいという検討をつけた、想像ができるようにしたりする。
	6年	○数と計算、図形の項目では特に学習内容の定着が見られる。 ●文章量が多くなった時の読み取り問題に課題がある。 ●図や式、絵と問題テキストが結びつけることに難しさが見られる。	□長い問題文の練習をしていく。 □図や式、絵などを言語化する練習をする。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○授業中に先生の話をしっかりと聞いている。 ○授業内容が分かっている児童が多い。 ○分からないときには質問する児童が多い。 ○ノートをきちんととっている。 ○計算式を正しくきれいに書いている。 ●6年生の英語の学習への興味関心、理解度、有用感が低い。 ●6年生は算数よりも国語に苦手意識を感じている。 ●新聞を読む児童が少ない。	□興味をもち、考えたい授業を考え継続する。 □新聞を活用した授業を取り入れる。 □要約学習を継続する。 □書き写すだけでなく、考え書き込むノートレベルアップをする。 □指導者同士の連携を図る。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○予習復習をしている。 ○家庭学習の時間が確保できている。	□家庭学習の取組例を紹介して、さらに内容を工夫し、自分に必要な力を伸ばしていけるようにする。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○生活リズムは整っている。 ●地域の行事に参加している割合が低い。	□生活習慣の取組を継続する。 □生活科や社会科、総合的な学習の時間において、地域学習を充実させ、地域への愛着をもてるようにしていく。 □地域の行事を発信するために、宣伝チラシ等の配布を行う。

令和6年度(2024)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立高松小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

4年生:国語、算数ともに平均正答率は市と全国を大きく下回っている。 5年生:国語の平均正答率は市と同程度、全国を大きく下回っている。算数は市、全国とともに同程度である。 6年生:国語の平均正答率は市と全国を大きく下回っている。算数は市をやや下回り、全国を大きく下回っている。
国語 ●4年生は、知識・技能に関する問題に課題がある。 ●4年生、5年生、6年生とも思考・判断・表現に関する問題に課題がある。
算数 ○5年生は、知識・技能に関する問題は概ね良い。 ●4年生、6年生とも知識・技能に関する問題に課題がある。 ●4年生、6年生とも思考・判断・表現に関する問題に課題がある。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○文章の内容や構成を捉えることは概ねできている。 ●記述式の問題に無解答率が高く、自分の考えやその根拠を明確にして文章を書くことに課題がある。 ●記述式の問題で、指定された文字数や段落構成で文章を書くことに課題がある。	□論理的に思考する力を高めるために、指定された条件に合わせた文章を書く練習を積み重ねる。 □授業の中で、自分の考えや根拠を書く活動に取り組む。
	5年	○大事なことを落とさずに聞くことは概ねできている。 ●説明文やスピーチの基本的な構造が十分に定着していない児童の割合が高い。 ●指定された文字数で文章を書くことに課題がある。	□日々の授業や読書活動を通じて語彙力を高める。 □修飾語を意識的に使わせるなど、豊かな表現につながる指導を工夫する。 □意見文や説明文の基本的な構造を意識させ、他教科においても一定の文字数など、条件を満たす文章を書く経験を積み重ねる。
	6年	○空欄に入る内容として適切なものを選択する問題については全国の高正答率をやや上回っている。 ●話すこと・聞くことの領域では全国の高正答率を大きく下回っている。目的や意図に応じて、資料を分類したり、関係付けたりすることに課題がある。 ●書くことの領域では全国の高正答率を大きく下回っている。感想と理由を書く際に、それぞれの要点を整理して書くことに課題がある。	□国語の説明文の学習において、種類の異なる複数の資料を提示し、必要な情報を見つける活動を取り入れる。 □書くことにおいて文章構成に対する意識が低いいため、構成を意識させながら初発の感想や学習の振り返りなどを書く活動を日々の学習に取り入れる。
算数	4年	○コンパスを用いて正しく図形を描くことができる。 ○同分母同士の足し算はできる。 ●2つの棒グラフから数量を比較し、その違いを言葉や数を使って説明することに課題がある。 ●答えの求め方を、言葉を用いて記述する問題に課題がある。	□日々の学習で、問題を解くだけでなく、解き方を考えたり他者に説明したりする活動を取り入れる。 □日々の学習で活用問題を取り入れ、自分の考えを書く活動を取り入れる。
	5年	○単純計算の高正答率はどの問題も全国の高正答率を大きく上回っている。 ○「複合図形の面積」の高正答率は全国の高正答率を大きく上回っている。 ●「分数の大小比較」の高正答率が全国の高正答率を大きく下回っている。	□2学期以降の分数の学習単元において、仮分数や帯分数の大小関係を意識した指導をする。
	6年	○図形の領域では県の高正答率をやや上回っている。 ●数と計算の領域では県の高正答率を大きく下回っている。小数のわり算の基本的な計算に課題がある。 ●データの活用の領域では県の高正答率を大きく下回っている。表やグラフから必要な数値を読み取ることに課題がある。	□数と計算の領域における各学年の系統表を再度確認し、数的感覚を養う指導を充実させる。 □データ処理を正確に行うための工夫をできるようにするために、他領域においても数をまとまりで捉える感覚を養う指導を行う。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○6年生は、ICTの活用によって、学習が効率的になっていると考えている児童の割合が高い。 ○6年生は、理科の授業を意欲的に取り組む児童の割合が高い。 ●4年生は、話し合いの場でよく話は聞いているが、自分の考えを進んで発表することを好まない児童が多い。 ●4年生は、新聞記事を読んでいる割合が全国平均よりも低い。 ●5年生は、本や新聞、辞典などの活字に触れる機会が全国平均と比較すると少ない。辞典を使用して調べものをする時間も少なかった。 ●6年生は、自分の考えをまとめることに苦手意識をもっている児童の割合が高い。 ●6年生は、友達関係に満足していない児童の割合が高い。	□誰もが安心して学習や活動に取り組むことができる環境づくり、集団づくりを進めていく。 □調べ学習をする時には、タブレットだけでなく、辞典などを活用できるように指導する。図書室などに新聞を置いて、目にとまるようにする。学習の合間などに読書の時間を設け、本に触れる機会を増やすことを通して、様々な活字の媒体に触れることができるようにする。 □ICTの活用を通して、考えをまとめて交流させる機会を充実させる。 □話し方や書き方の型を提示し、考えをまとめることへの抵抗をなくす授業づくりに努める。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○5年生は、家の人から言われなくても進んで勉強している児童の割合が全国平均よりも高い。 ○6年生は、授業以外で勉強のためにICTを使っている児童の割合が全国平均よりも高い。 ○6年生は、決められた家庭学習はきちんと取り組んでいる児童の割合が高い。 ●4年生は、国語、算数とも授業の復習をしている児童の割合が低い。 ●4年生は、家の人から言われなくても進んで勉強していると答えた割合が全国平均よりも低い。 ●4年生、5年生、6年生ともに家庭学習の時間が、学年の目安時間を超えていない児童の割合が全国平均よりも高い。	□授業に関連する課題プリント等を用意し、学校での学びの補充を充実させる。 □家庭学習の手引きにある「10分×学年+10分」の時間の確保ができる課題を用意し、家庭との連携を図って継続的に指導する。 □提出された課題のチェックを丁寧に行ったり、自主学習の内容紹介を行ったりすることで、児童の励みになるようにする。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○4年生、5年生ともに家の人と決めた約束や決まりを守っている児童の割合が高い。 ○5年生は、学校での出来事を家の人に話している児童の割合が高い。 ○6年生は、メディアの活用について家の人と約束したことを守っている割合が高い。 ●4年生、5年生ともに全国平均より睡眠時間が短い。 ●4年生、5年生ともにテレビを見る時間を自分で決められる児童の割合が低い。 ●4年生、5年生ともに自分で学校で使うものを用意したり、忘れ物がないか確かめたりできる児童の割合が低い。 ●6年生は、自己肯定感が低い児童の割合が高い。	□「生活ふり返り週間」や保健室だより等を通じて、家庭と連携して基本的な生活習慣の確立を図る。 □学級だよりでこまめに学校の様子を伝えたり、個別連絡や面談の場を設定したりすることで、児童が前向きに学校生活を送ることができるようにする。

令和6年度(2024)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立長浜小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

6年生による全国学力調査については、国語は市平均から大きく下回り、算数は下回った結果であった。いずれの教科も市や県、全国から比較すると低く、全体的な底上げと上位の子どもたちを増やす必要性を感じた。
5年生による出雲市の学力調査については、国語は市平均から大きく下回り、算数も大きく下回った結果であった。いずれの教科も市や県、全国から比較すると低く、全体的な底上げと上位の子どもたちを増やす必要性を感じた。
4年生による出雲市の学力調査については、国語は大きく下回り、算数も大きく下回った結果であった。いずれの教科も市や県、全国から比較すると非常に低く、低位層の子ども多さと上位層の子ども少なさが目立つ結果であった。
また、いずれの学年の意識調査でも学習への関心意欲が低く、学校として根本的な問題を解決していかなければならない困難さを感じている。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	●市平均、全国平均から大きく下回る。 ○漢字と読むことができれば出題に対応できる。 ●自分の思いを書くことはできるが、必要な情報を読み取ることが苦手で、行や段落に合わせて書くことも苦手。	□漢字ドリルをしっかりと読んだり、ペアで読み合ったりすることを繰り返す。 □音読をもっと確実にすることと、速く読めるように練習を繰り返すことが大切。基礎基本の徹底。 □ローマ字のタイピング練習を繰り返し行って覚える。
	5年	●市平均、全国平均から大きく下回る。 ●説明文の内容の読み取りが全体的に低い。 ●問題文の後半部分が無解答の子どもが多く、問題の取り組み方の未熟さや書くことへの苦手意識が感じられた。 ○漢字の読み書きは平均的。 ●わかる子どもとわからない子どもの2極化が進んでいる。	□説明文の学習方法の改善(叙述をもとに段落相互の関係をとらえたり、キーワードを手掛かりに文意を正確にとらえたりする学習をていねいに行う。 □内容の把握が短時間でできるように毎日の音読練習や授業中の音読をしっかりと行う。
	6年	●市平均、全国平均から大きく下回る。 ●簡潔に文をまとめることの良さに気づいていない。 ●知識や技能が全体的に低い。 ・文章を書くことが得意な子どもは正答率が高く、苦手な子どもは無解答で終わっていることが多い。 ●テストの時間配分が不得意。最後まで粘り強く解くことが苦手。	□題意に沿った文中の言葉の取捨選択をするために、主語と述語の関係をはっきりさせることの指導を徹底させる。 □キーワードに印をつけるなど、長文問題の解き方指導をするために業者の学力テスト形式のテストで指導をする。 □粘り強く最後まで取り組むことができるように、できる問題から取り組む指導をする。
算数	4年	●市平均、全国平均から大きく下回る。 ●足し算、引き算は70%の子どもができていますが、掛け算の数学的理解、小数、□を使った式、棒グラフの理解などが身につけていない子どもの割合が高い。	□個人で解答する時間の確保。 □自分で他人に説明する機会を増やす。 □計算の基礎練習を朝の活動に取り入れて技能を高める。 □基礎基本の徹底。
	5年	●市平均、全国平均から大きく下回る。 ○基礎的な計算や分度器の読み取りでは比較的理解ができています。 ●倍の問題を始めとして、文章問題への理解が難しく、記述問題の説明が苦手。	□文章を読み、図を書く練習をする。 □キーワードやポイントとなる数に印をつけるくせをつける。 □算数の授業の中で記述することやそれをもとに説明するペア学習の時間を増やす。
	6年	●市平均からやや下回り、全国平均からは大きく下回る。 ○全体的に無解答率が低く、課題に取り組む姿勢は真摯である。 ○折れ線グラフの説明が比較的できた。 ●演算、体積、速さの概念が理解しにくい。 ●生活体験と学習内容の結びつけるのが苦手。	□生活場面を扱った活用問題を解くだけでなく、お互いに説明し合う授業形態を多くする。 □割り算の性質を再確認しながら学習に取り組む。 □絵や図に表して考えたり伝えたりする学習に取り組む。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	●ICT機器を活用した主体的・個別的な学習が十分にできていない。 ●図書館利用の時間が少なく、図書館活用の学習の必要性を感じた。 ○子どもたちは自分の存在意義を十分に感じており、先生達から認めてもらっていると感じている割合も高い。	□タブレットドリルなどを家庭学習に取り入れ、持ち帰りを習慣化する。 □教科を問わず図書館活用やタブレットの利用によって調べ学習の時間を増やし、主体的な学習の時間を増やす。 □ペアやグループで話し合っている学習を心がけ、「聞く力」「話す力」をつけていく。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	●参考書や問題集などを持っていない子どもが多く、学校から与えられた教材だけで学習している姿が感じられた。 ●本や新聞などの活字に触れる機会が少なく、就寝時間などに問題を抱えている子どもが多い。	□読書の習慣がついていない子どもの割合が高く、定期的に図書館利用をして読書の習慣づけを今以上に進めていく。 □メディア接触の時間が比較的多く、就寝時間が遅い子どもたちについては、アンケート結果などの情報を元に学級や学校全体で指導していく機会を設ける。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	●地域の行事に参加していない子どもが多く、保護者や子どもの地域とのつながりが薄くなっている様子がうかがえる。 ○朝食やあいさつなど家庭での生活で高い達成度が見られる。	□道徳や総合の時間で地域の活動に目を向けることができるようにする。 □学校と地域の連携を深める活動を見直し、行事の精選を進めていく。 □だんだんタイムの実施など子どもたち同士の円滑な関りができる機会を増やしていく。

令和6年度(2024)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立四絡小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○4年生の国語は全国の平均正答率とほぼ同程度であった。算数は、全国の平均正答率をやや上回った。
○5年生の国語は、全国の平均正答率とほぼ同程度であった。算数は、全国の平均正答率を大きく上回った。
○6年生の国語は全国の平均正答率をやや上回った。算数は全国の平均正答率と同程度であった。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○「漢字の部首」「国語辞典の使い方」や「物語の内容を読み取る」「説明文の内容を読み取る」は、正答率が高かった。 ●「調べたことをもとに文章を書く」では、情報と情報の関係について理解し、自分の考えを明確にしながら書くことに課題がある。	□ローマ字などの学習や言葉の学習について振り返りを行いながら定着を図る。 □「文章を書く」力をつけるために、条件作文などを朝学習や宿題などを利用して繰り返し練習する機会を設ける。また、学校図書館を活用したり、総合的な学習の時間などを使ったりして、自分の考えを明確にして文章を書く指導を行っていく。
	5年	○「漢字を読む」「文章を書く」は正答率が高かった。 ●「説明文の内容を読み取る」の問題は正答率が低かった。 ●「言い換えた表現とその元となる表現を結び付けて心情を読み取ること」「情報を整理し、段落中の話題を捉えること」に課題がある。	□条件付き作文(文字数・内容等)の活動を日々の学習に取り入れる。 □段落や話の要約活動に取り組んだり、辞書等を用いて語彙を増やす活動に取り組んだりする。 □学校図書館活用の充実を図り、「読み取り」の指導を計画的に行う。
	6年	○「主語・述語との関係を捉えることができる」「目的や意図に応じて伝え合う内容を検討することができる」「読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付くことできる」の問題の正答率が高かった。 ●「人物像を具体的に想像することができる」「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる」の問題の正答率が低かった。	□文字数や内容などの条件を加えた作文活動を継続する。 □学校図書館を活用した授業を行い、事実と考えを明確にした文章を書く活動を計画的に行う。 □物語の学習の指導を見直す。
算数	4年	○「足し算や引き算、かけ算、割り算」の基本的な計算は正答率が高い。整数－小数第一位の計算や同分母の真分数＋真分数の計算もよくできている。 ●文章題のわり算では、立式や計算はできるが、わり算のあまりの切り上げる理由を説明する問題では正答率は市平均より上回っているが、無解答率も他の問題より高い。	□分数や小数など生活と結びつけたり、量感を伴う活動を行ったりするような算数的活動を取り入れていく。 □どのクラスでも授業前に計算練習を行っている成果がでており、継続していく。また、宿題や授業の中で、反復して学習をしたり、プリント学習を行ったりして、復習する機会を多く取り入れる。
	5年	○「小数や分数の計算」「概数」「角の大きさ」「面積の単位」「式の意味を捉える」の問題の正答率が高かった。 ●「分数を変形し、分数同士の大きさを比較する」「量感覚を基に面積からものの大きさを考える」「問題の内容を式や図に表す」「問題の意味を理解すること」に課題がある。	□定期的にこれまでの学年のふりかえりのプリントや課題を出し、児童が復習する機会を確保する。 □身近なものに関連付けながら、量感を養う活動を定期的に授業内外で取り組む。 □問題を図や式に表すようにすることで情報を処理する力を育てる。
	6年	○「直方体の見取り図を書くことができる」「円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができる」の問題の正答率が高かった。 ●「1時間の除法において、除数と商の大きさの関係について理解している」「折れ線グラフから数値を読み取り、条件にあてはまることを言葉と数を用いて記述できる」の問題の正答率が低かった。	□式や図、言葉などを使って考えたことを表現する場を取り入れる等、授業の改善を図る。 □復習プリント等を活用し、一人一人の習熟度の実態を把握し、個別の指導を行う。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○国語、算数ともに「授業中に先生の話をよく聞き、ノートを取っている」と肯定的な回答をした児童が全国平均を上回った(4・5年)。 ●授業中にICT機器の活用課題がある。(4・5年) ○「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができるか」について、肯定的な回答が全国平均を上回った(6年)。 ○「学級会」に関する質問項目への肯定的な回答が全国平均を上回った。(4・5・6年)	□学習のねらいに応じてタブレットを活用し、主体的に学習に取り組むことができるようにする。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	●「国語・算数ともに予習・復習をするか」について肯定的な回答をした児童が全国平均を下回った(4・5年)。 ○「1時間以上、家庭で学習に取り組む」に関する質問項目への肯定的な回答が全国平均より上回った(6年)。 ●「ゲームをする時間」に関する質問項目への肯定的な回答が全国平均を下回った(6年)。	□学年に応じた自主学習の手引き等を示し、めあてをもって学習に取り組むことができるようにする。 □四絡読書の日、ダウンメディア週間等を利用し、家庭との連携を図りながら主体的に学習に向かう態度を養う。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「自分が住んでいる地域が好きである」「地域や社会をよくするために何をしたらよいか、考えることがある」についての回答が市平均を大きく上回った。(4・5年) ○「地域や社会をよくするために何かしてみたいか」について肯定的な回答が、全国を上回った(6年)。 ●「地域行事に参加したか」について肯定的な回答が平均を下回った。(4・5年)	□生活科や総合的な学習の時間において、地域の「人・もの・こと」を効果的に活用した実践を続ける中で、地域との連携を一層密にしながら、地域の一員である自覚や郷土愛を高めるようにする。 □行事や縦割り班活動の見直しをもち、学んだことを振り返りながら、次の行事や活動・生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行う。

令和6年度(2024)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立高浜小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○4、5年生の国語に関しては全国または市の平均正答率よりも大きく下回っている。特に、4年生は、言葉の特徴や使い方に関する事項に課題がある。どちらの学年においても自分の考えを書くことに課題がある。
○4、5年生の算数に関しては全国または市の平均正答率と同程度である。どちらの学年においてもデータの活用の問題に課題があり、全国平均正答率を下回っている。
○6年生の国語に関しては、全国または市の平均正答率と同程度である。算数に関しては、大きく上回っている。国語、算数とも記述式の問題に関しての無解答率は低い。
○定期的なノーメディア週間の取組等により、基本的な生活習慣が身に付いている児童が多い。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	●全国または市の平均正答率よりも大きく下回り、特に基礎、言葉の特徴や使い方に関する事項、書くことに課題がある。	□日常的に話したり書いたりする中で、主述の関係や要点を抑えながら表現できるようにする。 □言葉の内容や意味を理解する力を身につけるために、要点に気をつけて読んだり聞いたりする経験を積み重ねていく。
	5年	○話し合いの内容を聞き取り、話し手の伝えたいことの中心を捉えることの正答率は、全国平均正答率と比較し、上回った。 ●スピーチをする問題、文章を書く問題の正答率が約3割で、条件に当てはめながら、自分の考えを明確に書き表すことに関して、全国平均正答率より大きく下回った。	□授業において、書き方の例文を示すなどして、自分の考えを確実に書き表す活動を充実させる。また、書いた文章を見合いながら推敲する活動を推進する。
	6年	○全国または市の平均正答率と同程度である。 ●目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして伝える問題の正答率が低い。	□教材資料等を活用し、情報と情報の関係を整理したり、目的や意図に応じた話の内容を捉えたりすることができるようにする。 □日頃から、読書に親しんでいるが、選書に偏りが見られるので、物語等、様々な分野の本を読む機会を増やす。
算数	4年	○数と計算については、全国平均と同程度である。 ●全国または市の平均正答率よりもやや下回り、特にデータの活用に関する課題がある。	□問題場面を、図、式、言葉などと関連付け、自分の考えを表現する学習に取り組む。
	5年	○図形の角の大きさに関する問題は、全国平均正答率を大きく上回った。 ●変化の関係やデータの活用に関する問題は、全国平均正答率より大きく下回り、無解答の割合も高かった。	□文字を使った立式や、文字を含んだ式の変形を復習し、定着を図る。 □自分の考えを明確化し、言葉や式に表す活動を増やす。また、立式する際は、数字だけでなく、言葉による説明も書くことで、筋道立てて思考できるようにする。
	6年	○全国または市の平均正答率を大きく上回っている。 ●図形の構成要素に着目して考え、その理由を言葉や数を用いて記述する問題の正答率が低い。	□図形の定義や性質、構成要素に着目し、理解を深める。 □問題を正確に読み取り、図、式、言葉等で表現できる学習活動を行う。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○話し合いでは、自分の考えを積極的に話したり、相手の話をしっかりと聞いたりして、自分の考えを深めたり、広げたりしようとする児童が多い。 ○授業でPC・タブレット等のICT機器の使用または役立つと答えている児童が多く、授業でも活用している。	□自分の考えを表現したり友達のことを比較しながら考えを深める学習を行う。 □内容理解を図ることができるよう、話の要点を確認したり、自分の言葉や文章、図などで表現したりする学習活動を取り入れる。 □学年や教科に応じて、PC・タブレット等のICT機器を活用し、学校図書館と併用しながら調べたり、まとめたことを発表したりする。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○勉強するときは集中して取り組み、分からないことや詳しく知りたいこと等、自分で学び方を考え、工夫することができていると答えた児童が多い。 ●読書や新聞等の活字に触れる機会が少なく、勉強に役立つテレビ番組を見ている児童は少ない。分からないことを調べながら学習している児童も少ない。	□集中して取り組む児童が多い一方で、見直しが十分にできていない児童も多い。そのため、日常的に活動の確かめや振り返りを行う機会を意図的に設定する。 □学期毎にノーメディア週間を実施するとともに、合わせて家庭学習頑張り週間やファミリー読書(家読)を行い、家庭学習の見直しを図ったり、読書の機会を増やしたりする。 □自主学習ノートはコメントや評価を行う。また、校内掲示や表彰をすることで家庭学習への意欲付けを行う。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○自己肯定感の高い児童が多い。 ○基本的な生活習慣が身に付いている児童が多い。 ●地域や社会に何かしてみたいと答えた児童は多いが、実際に、地域の行事に参加している児童は少ない。	□身近な社会(地域)への愛着・関心は高いので、コミュニティセンターと連携をし、身近な課題や地域教材、時事問題をテーマにした学習活動の工夫をする。 □地域行事の案内や参加を促す。

令和6年度(2024)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立北陽小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 平均正答率の比較
 ・4年生の国語は、市と同程度だが、全国より大きく下回る。算数は、市と同程度で、全国をやや下回る。
 ・5年生の国語は、市と同程度で、全国よりやや下回る。算数は、市と全国を大きく下回る。
 ・6年生の国語は、県と全国をやや上回る。算数は、県と全国との差は見られない。
 ○学年相当の漢字や算数の基礎基本には定着が見られる。
 ○ICTを学習に活用することで、楽しみながら学習ができ、効果が表れている。
 ●条件にそった文章を書くこと。
 ●問題を読み取り、大まかな内容を理解すること。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○漢字を正しく書いたり読んだりすること。 ○話し合いの内容を聞き取ること。 ●指定された長さで文章を書くこと。 ●段落の役割について理解すること。 ●自分の考えを明確にして文章を書くこと。	□文章に書き慣れるため、短作文・条件付き作文に取り組む。 □様々な種類の文章を読んだり、自分の考えをまとめて書いたりする経験を増やすために朝活動等で新聞ワークシートに取り組む。 □見通しを持って問題を解いたり、設問に対する時間配分を考えたりするため、学力調査型テストの形式で練習をする。
	5年	○ことわざの意味等がよくわかっている。 ○長文読解で、質問のポイントをしばって答えを見つける力がある。 ●説明文の構成をつかんだり、長文の読み取りの中で大まかな内容をつかむことが苦手である。 ●修飾語のしくみが理解できていない。 ●話し方のポイントをつかんで聞く力が弱い。	□作文指導を工夫し、低学年からの積み重ねを大切にする。(作文構成、伝えたいねらいを意識した書き方・児童相互の推敲など) □各教材ごとに文章の要約を練習し、読み取る力やまとめる力をつける。 □新聞ワークシート等を用いて定期的に読み取りの練習をする。
	6年	○学年相応の漢字は書けている。 ○主語と述語の関係について理解している。 ○無解答率が低い。(全国・県と比べて) ●「話し言葉」と「書き言葉」の区別ができていない。 ●2つ以上の条件に基づいた作文を書くことが苦手である。 ●登場人物の相互関係や心情を描写に基づいて捉えることが難しい。	□「話し言葉」を交えた文を提示して間違いを見つけるなど、「書き言葉」に慣れるような活動を取り入れる。 □2つ以上の条件をつけた条件作文を書く練習を行う。 □登場人物の相互関係や心情について読み取ったり、考えたりする学習を、授業の中でより丁寧に扱う。
算数	4年	○基礎的な計算問題を解くことができる。 ○丁寧に作図をすることができる。 ○はかりやグラフの読み取りが正確にできる。 ●文章問題の内容を理解し立式すること。 ●記述して説明すること。 ●円の半径について理解度が低い。	□式や数を用いた論理的な説明ができるよう、ペアやグループを活用して説明をする機会を増やす。 □文章問題では数直線を用いて、数同士の関係性への理解を深められるようする。 □学習したことが定着するように、単元終了後も繰り返し練習する。
	5年	○わり算・分数の計算は理解できている。 ○式や解き方の説明をしたり、理由を述べたりすることができる。 ●算数用語の理解(以上・未満等)、表の意味理解、量感をつかむこと、文字・□を使った式 について理解度が低い。	□問題を図や言葉で説明したり、友達の考えを代わりに説明したりする練習をする。 □ペアやグループで話し合ったり説明しあったりする場面を多く設ける。 □単位の換算を繰り返し練習する。 □量感を育てる算数的活動を低学年時から積極的に取り入れる。
	6年	○問題の求め方(考え方)を式や言葉を用いて記述することができている。 ●「もとにする量」「比べる量」「割合」がどれに当たるのかが理解できていない。 ●小数の割り算の定着ができていない。 ●円柱の展開図で、長方形の長辺と円周の長さが等しいことを理解できていない。	□様々な問題(計算、文章題)に取り組み、解き方に慣れる。 □展開図を使って、組み立てたり、対応する辺はや面はどこかを見つけたりするなど、作業的な活動を取り入れる。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○勉強にICTを活用することで楽しみながら学習をしたり、理解が深まったり、自分の考えを分かりやすく伝えたりしている。 ●普段あまり新聞を読んでいない。 ●勉強に図書館や辞典を積極的に使用する児童が少ない。	□新聞ワークシートを用いて、新聞に触れる機会を設けたり、読み方を指導したりする。 □学習で使う言葉を使って自分の考えを書く活動や、友達に話す活動を設定する。 □問題解決に必要な資料を使って調べたり、考えたりする活動を設定する。 □様々な学習場面で辞書を気軽に活用する。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○わからないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え工夫することができる。 ○自分で学習の計画を立てることができる。 ●スマートホンとタブレットの使用時間が長い。 ●メディアの使用時間の約束が守れていない。 ●家庭学習の時間が平日・休日ともに全国平均より短い。	□家庭と連携し、生活習慣の見直しを図る。 □家庭学習に出す課題を見直したり、自学メニューを工夫したりして、やる気を持って取り組めるようにする。 □自学等で該当学年の習熟と全学年の復習がバランスよくできるようにする。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○地域が好きな児童が多い。 ○きまりを守って生活できている。 ○人の役に立ちたいとか人が困っている時に助けてあげたいと考えている児童の割合が多い。 ○起床・テレビ視聴・宿題などの時間を決めて自分でできている児童が多い。 ●将来の夢や目標を立てている児童の割合が低い。 ●メディアの時間が守れていない。 ●地域の活動に参加していないと認識している児童が多い。実際は多いと思うが。 ●あいさつをあまりしていない。	□キャリア教育の充実を図り、自己実現に向けた個々の能力の育成を目指す。 □メディアとの付き合い方を、保健室からの指導でも繰り返し行う。 □あいさつが、高学年から全校を盛り立ててしっかりできるように指導し、推進していく。 □ダウンメディア週間、家庭科学習などと連携して家庭での手伝いを推進する。 □個人差があるが、読書が好きな児童は多い。図書館利用を引き続き推進する。

令和6年度(2024)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立神西小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○6年生においては、国語・算数ともに全国平均を大きく上回っている。
○5年生においては、国語はやや全国平均を上回っている。
●4年生においては、国語・算数ともに全国平均を大きく下回っている。
●4・5・6年生において、学習に対する意欲が全体的に低い。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	●文章を正しく読み取るが全国正答率を大きく下回っている。 ●漢字の正しい読み書きが全国正答率を大きく下回っている。	□容易な書物から触れる機会を設ける。 □文章の組み立て方を例示し、意識して書けるようにする。 □漢字の反復練習を継続して行う。
	5年	○漢字の読み書きや言葉のきまりについての理解が全国平均を上回っている。 ●文章を書くが全国平均を大きく下回っている。	□時間を意識して書く機会を増やす。また、書くときに条件を設定して書かせる。 □進んで書きたくなるようなテーマで、文章を書く機会を設ける。 □どの授業でも根拠を明らかにして説明できるような場面を設定する。
	6年	○結果は概ね良好で全国平均を大きく上回っている。 ●自分の考えを表現したり、考えを別に表したりする等記述に無回答が多かった。	□自分の考えを伝えるために、文章の構成を工夫できるよう日記指導等を工夫する。 □時間を意識して課題に取り組むよう指導する。 □普段から自分の意見を短文でまとめられるよう指導する。 (1行で書く、感想を必ず書く、事実と感想が混ざらないように)
算数	4年	○基本的な計算については、平均並みに正しく処理できている。 ●活用における正答率が全国平均と比べ大きく下回っている。 ●数量関係における正答率が全国平均を大きく下回っている。	□数直線やグラフなどの資料に表されている情報を正しく読み取ることができる練習を重ねる。 □文章の中の情報を正しく読み取って課題解決を図るような支援を行う。 □数量において具体的にイメージが持てるような支援を行う。
	5年	○分数・角の大きさは全国平均をやや上回っている。 ●基礎基本・応用問題ともに全国平均を大きく下回っている。 ●最後の問題での無解答が多い。(式や答えだけでなく、わけを記述する問題)	□少人数指導を取り入れ、個々にあった指導・支援を行う。 □基礎・基本の定着を図るよう、児童の実態を鑑みた計算会を行う。 □式や図・グラフ等を関連づけて、説明する場面を意図的に設定する。
	6年	○結果は概ね良好で全国平均をやや上回っている。 ●複雑な立方体の体積を求めたり速さを求める問題が苦手。 ●文章の長い問題になると条件を整理できない。	□問われていることを明らかにして、課題解決を図るような指導をする □既習事項を生かす習慣、関連付けて考えることを意識できるような指導をする。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「授業では、先生の話をしっかり聞いている」「話し合いで、自分の考えを進んで話している」と回答した児童が全国平均よりやや多い。 ●「○○○の学習は好きですか」と質問された際、肯定的な回答が少ない。 ●「話し合いで、相手の考えをしっかり聞き取っている」と回答した児童が全国平均より少ない。	□学習に対する肯定的なイメージを持てるように、学習の導入で児童の興味関心を引く工夫をしたり学習のゴールを具体的に示したり、児童の知的好奇心をくすぐる授業を展開する。 □友達のことを聞くことに対する必要感をもてるように、児童の考えを比較したり、関係づけたりして聞くことを意識づけていく。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	●「学習したことを家庭で共有している」と回答した児童が全国平均より少ない。 ●国語・算数ともに「返された答案の見直しをしている」と回答した児童が全国平均より少ない。	□学級通信や自主学習ノートを通して児童の実態を伝えていく。 □テストや授業で扱った問題やりっぱなしにならないように自主学習ノートや計算会等を使って定着させていく。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「体育の授業のほかにも運動している」と回答した児童が全国平均を大きく上回った。 ●「地域の行事に参加している」と回答している児童が全国平均を下回った。 ●「夜は、時刻を決めて寝ている」と回答した児童が全国平均より少ない。	□公民館や市等が呼びかけているイベントや広告等を学習と関連させ、面白さややりがいをもたせていく。 □校内の「元気もりもりチャレンジ週間」において、就寝時間を意識させて取り組む。

令和6年度(2024)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立平田小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

(国語) 全国の平均正答率と比べて4年生はやや下回り、5年生・6年生は、同程度である。 ○5年生は、漢字を書く、言葉の学習が全国を大きく上回る。 ●4年生・5年生ともに、読むこと・聞き取ることが全国を下回り、6年生においても書くことの無解答率が高く、話すことも含め表現することに課題がある。 (算数) 全国の平均正答率と比べて4年は同程度、5年生はやや上回り、6年生はやや下回っている。 ○図形は、4年生は全国を大きく上回り、6年生は下回っている。 ○5年生は、基礎・活用ともに全国をやや上回っている。 ●記述式の正答率が4年生・5年生・6年生ともに全国を下回り、問題を読み取って立式することに課題がある。	
--	--

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○文章の基本的な構成の理解し、ローマ字を正しく読むことができる。 ●問題文を理解し、自分の考えを書くことに課題がある。 ●登場人物の気持ちを考えることに課題がある。	□読書の機会を増やす。 □初見の文章を読み取ったり、決められた条件で書いたりする活動を増やす。
	5年	○言葉・漢字など基礎基本について、よく理解している。 ●話す・聞くことに課題がある。 ●自分の言葉で書く記述に課題がある。	□要点を整理したり、条件に合わせて内容を考えたりしたスピーチを行う。 □作文など書くことを意識して取り組み、日々の積み重ねを図る。
	6年	○物語文を読んで、内容を理解して答えている。 ●正しく漢字を書くことに課題がある。 ●条件に合わせて書く、内容を読み取って書くなどの記述に課題がある。	□ICTを活用して自分の考え、友達の考えを共有し、より良い考えに高めていく、学びのサイクルを高める。 □グループ、全体といった発表・表現の場を大事にし、書く・話す活動を大事にし、主体的に活動に取り組めるようにする。
算数	4年	○基本的な計算技能が身につけている。 ○図形について理解している。 ●自分の考えを文章で説明することに課題がある。	□自分の考えをペアやグループで相談したり、全体の場で説明したりする場を設け、自分の考えがもてるようにする。 □友達の考えを聞いて、自分の言葉でもう一度考えて、ノートに書くなど言語化するようにする。
	5年	○基礎的な計算技能が身につけており、どの設問でも正答率が高い。 ○活用の内容の問題での正答率が高い。 ●記述で解答すること、図形の作図に課題がある。	□ペアや小グループを活用し、だれもが説明する場を設定する。 □説明では、道筋や根拠を表す言葉や算数用語を使って行うようにする。
	6年	○グラフの読み取りなどデータの活用について、よく理解している。 ●円柱の展開図・体積の求め方など図形の内容に課題がある。 ●式に表したり、なぜその解答になったのかを説明したりすることに課題がある。	□公式を学ぶ際の式の意味理解を深める授業作りをする。 □計算会に現在習っている問題に合わせ、復習問題も入れ、既習事項を復習する機会を設ける。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○話を聞こうとしている児童の割合が高い。 ○基礎・基本は理解している割合が高い。 ●自分で考え、説明することできる割合が低い。 ●言われたことはやるが、自分からやろうとする児童は少なく、受け身である。	□声や視線、内容など相手に伝えたいという意識をもったスピーチを行う。(発達段階に応じて条件をつけていく。) □調べる学習や感想を書くなどの活動では、目的をはっきり示し、ワークシートの型ややることをはっきりさせて取り組む。 □目標をもって、それに向かう気持ちがもてるようにする。(がんばりカードや発表の場)
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○宿題にきちんと取り組んでいる児童の割合が高い。 ○テレビを見る時間を決めている割合が高い。 ●本や新聞を読む割合が低い。 ●メディアに接する時間が長く、学習時間が短い。	□発達段階に合わせ、制限や内容を示した日記、自学に取り組む。 □「さわやか週間」の取り組みを通して、メディアとの付き合い方や時間の使い方を考え、実践できるよう指導する。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○寝る時間を決めて、しっかりと睡眠をとっている児童の割合が高い。 ○家族と一緒に夕食を食べている割合が高い。 ●家庭でお手伝いをしている割合が低い。 ●自分の住んでいる地域が好きだという児童の割合が低い。	□生活科、社会科、総合的な学習の時間などを中心に、地域の人・ものを活用し、自分事として考える場面を設ける。 □手伝いや親子遊びなどを紹介し、家族でコミュニケーションをとるきっかけ作りをする。

令和6年度(2024)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立瀬分小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

4年生は、国語・算数ともに、全国平均正答率・市平均正答率を下回っている。5年生の国語は、全国平均正答率・市平均正答率を上回っており、算数は、全国平均正答率・市平均正答率を下回っている。6年生は、国語・算数ともに、全国平均正答率・市平均正答率を大きく下回っている。
 国語 … 「書くこと」「情報の扱い方」に課題が見られた。
 算数 … 「図形」の力がついてきている。図や表、グラフといった情報から必要な数値を読み取って立式したり記述したりすることに課題がある。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○読解力、話の内容を聞き取る力がついてきている。 ●漢字の読み書きや条件に合った文章を書くことに課題がある。 ●時間内に問題を最後まで解くような時間配分が必要である。	□漢字の定着を図るために、毎月の書取会の実施、文章の中で適切に漢字を使用するような活動を継続して行っていく。 □内容を工夫した条件作文を継続的にを行い、短時間で適切な文章を書く力をつけていく。 □時間を意識し、問題を解いたり、時間内にできるだけ多くの文章を書いたりするようなスキルを身につけていく。
	5年	○漢字の読み書き、物語や説明文の読解力がついてきている。 ○自分の考えを明確にして文章を書く力がついてきている。 ●情報と情報との関係づけの仕方について理解し、話の中心が明確になるように話の構成を考えることに課題がある。	□国語科やその他の教科でも話の構成を考えて話したり、書いたりする機会を多く設けていく。 □より発展的な問題を取り上げて、読解力や言葉の力を伸ばしていく。
	6年	○目的や意図に応じて集めた材料を分類したり、関係づけたりして、伝えたいことを明確にする力がついてきている。 ●基礎的な言語事項(主語と述語、修飾語等)に課題がある。 ●情報と情報との関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことに課題がある。	□文法の力をつけるために、プリント等を使い反復練習を行う。 □情報を活用して解く問題に継続して取り組み、問題の解き方に慣れるようにする。 □初めて読む読解問題でも正確に読み取れるように、宿題や朝活動等で、いろいろな文章を読み、要点をつかむなどの力をつけていく。
算数	4年	○図形領域の力がついてきている。 ●わり算や□を使った式の誤答が多い。 ●図や問題文から問題の題意を読み取り、立式をするに課題がある。	□問題の題意をつかめるよう、キーワードなどに線を引いたり、図に表したりする活動を増やす。 □立式の理由を書いたり、話したりする活動を計画的に取り入れる。 □文章を読むことに慣れるために、様々なジャンルの文章を読む経験を増やしていく。
	5年	○図形領域の力がついてきている。 ●概数や変わり方の理解に課題がある。 ●情報量の多い問題や抽象概念が必要な問題の題意を理解することに課題がある。	□概数や変わり方など課題のある問題について、朝学習や家庭学習等で計画的に反復練習させる。 □文章を読むことに慣れるために、様々なジャンルの文章を読む経験を増やしていく。
	6年	○図形領域やデータの読み取りの力がついてきている。 ●図や表、グラフといった情報から必要な数値を読み取って立式したり、記述したりすることに課題がある。 ●小数のわり算や速さの理解に課題がある。	□自分の考えを、言葉や図、式を示しながら説明する活動を計画的に取り入れる。 □様々な問題を解く経験を増やし、問題の解き方に慣れる。 □文章を読むことに慣れるために、様々なジャンルの文章を読む経験を増やしていく。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「自分によいところがある」と感じている児童が多い。 ○友達との話し合い活動が、自分の考えを深めたり、気づきにつながったりしていると感じている児童が多い。 ●国語・算数について、苦手意識をもっている児童の割合が多い。 ●前に解いたやり方が使えるか考えたり、文章問題は式や図に置き換えて考えたりしている児童の割合が低い。	□既習事項や前時までの学習と本時の学習がどうつながっているかを意識できる環境を工夫する。 □児童が達成感をもてるようにスモールステップで学習を組み立てる。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	●家庭学習の目標時間に満たない児童が多い。 ●新聞・本を読んだり、勉強に辞書・参考書・問題集を使ったりする児童が少ない。	□朝学習や国語スキルアップの時間を活用して、本や新聞を読む機会を増やす。 □家庭学習について学年で決められた目安の時間を意識するような手立てを考える。 □タブレットの持ち帰りを進め、家庭学習でも活用できるように工夫する。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○朝食を摂取している児童や、決まりを守ったり、あいさつをしたりすることができていると感じている児童が多い。 ●クロスワードパズルやパズルなど、学びにつながる遊びを好んでいる児童が少ない。 ●メディアの利用時間が長い。	□家庭学習習慣や基本的な生活習慣の定着を図る取組(さわやかてつじんウィーク)時に、学びを意識できる家庭での取組の呼びかけをする。

令和6年度(2024)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立朝陽小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

市学力・学習状況調査
 ●4年生に関しては、国語、算数ともに全国や市の平均を大きく下回った。(以下「平均」を省略)
 ○5年生国語に関しては全国と同程度、市を上回った。
 ●5年生算数に関しては全国を大きく下回り、市を下回った。
 全国学力調査
 ○国語に関しては、全国、県、市ともに同程度。
 ●算数に関しては、県や市と同程度、全国をやや下回った。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	●漢字を書くことに課題がある。 ●情報を精査して書いたり、条件に合わせて書いたりすることに課題がある。 ●情報を正しく読み取ることに課題がある。	□授業の見通しをもてるようにし、学びに向かう気持ちを高める。 □継続して漢字の練習をする時間を設け、基礎基本の定着を図る。また、漢字ゲーム等を取り入れ、漢字に慣れ親しむようにする。 □継続して条件作文を書くことを取り入れる。
	5年	○全国正答率と同等の平均正答率である。 ○漢字を読むことができる。 ○我が国の言語文化に関する事項について強みが見られる。 ●説明文の段落相互の関係を読み取ることに課題がある。	□思考ツールを活用して、情報を俯瞰して読み取れるようにする。 □新聞を読み要旨をまとめる。 □話す・聞くポイントを明確にしたスピーチ活動を取り入れる。
	6年	○全国正答率と同等の平均正答率である。 ○情報の扱い方に関する事項について強みが見られる。 ●たくさんの情報を整理して、読み取ることに課題がある。	□思考ツールを活用して、情報を俯瞰して読み取れるようにする。 □新聞を読み要旨をまとめる。 □話す・聞くポイントを明確にしたスピーチ活動を取り入れる。
算数	4年	○大きい数、小数、分数の基礎的な計算。 ●分数の仕組みを理解すること。 ●文章を式に表したり、計算方法を言葉で説明したりすること。 ●二等辺三角形の作図や、身近にある物の重さの量感。 ●言葉で説明する問題に無解答が多くなる。	□日常生活の中で量感を意識させるようにする。 □言葉や式を用いて説明ができるように、授業で、説明を書いたりペアで伝えたりする活動を意識的に取り入れる。 □授業や家庭学習で、作図したり、式や図に表したりする活動をたくさん経験させる。
	5年	○計算の順序、分度器の読み方、グラフの読み方の理解。 ●身近にあるものの面積に対する量感。 ●平行四辺形の作図。 ●変わり方調べで言葉や数、式での説明。 ●折れ線グラフの目盛りの大きさに着目してわけを説明する問いへの無解答。	□言葉や式を用いて説明ができるように、授業で、説明を書いたりペアで伝えたりする活動を意識的に取り入れる。 □授業や家庭学習で、作図したり、式や図に表したりする活動をたくさん経験させる。 □他教科でも、グラフの読み取りの指導を行い、活用する力をつける。
	6年	○5角柱の面の数を言葉と式で説明。 ○道のりと速さを比例の考え方を使って考察。 ○表を読み取って正しく分類、整理。 ●少数の割り算$540 \div 0.4$の計算。 ●球の直径の長さから箱の体積を求める式に表す。 ●速さの意味についての理解。	□小数や分数の仕組みを理解して計算し、活用する問題に取り組む。 □抽象的思考を必要とする問題に対応できるように、図や数直線等自分が分かりやすい方法を見つけさせ、考えを交流する場を設定する。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○真面目に授業に取り組んでいる様子がうかがえる。 ●授業への取組は肯定的評価が多いが、自ら学ぶ姿勢は弱い。学んだことを活用する意識も低い。または、その方法が定着していない。 ●説明文で筆者の考えと自分の考えを比較しながら読む児童は少ない。 ●算数では、学習した知識を自分の言葉で話している児童は少ない。	□児童の知的好奇心を高める掲示・展示を工夫する。 □学習内容に関わるレディネスを高められるよう、環境を整備していく。 □ペアやグループで互いの考えを伝えあう活動を意図的に設定する。 □まとめる際に、ペアで学んだことを伝えあう時間を意図的に設定する。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○宿題をする習慣はできている。 ●平日の家庭学習として、出された課題には取り組んでいるが、休日の学習時間を見ると、発展的・主体的に課題を見つけて取り組んでいる割合は低い。 ●予習・復習に自ら進んで取り組む児童は少ない。 ●与えられた課題には取り組んでいるが、新聞や図書館、電子辞書等を活用して、自ら課題解決しようとする学びの姿は低い。	□自主学習の仕方、課題解決の方法について示し、実践する。取組の様子を交流する機会を設定し、継続して取り組んだり、幅を広げたりできるようにする。 □家庭学習の仕方について、校内で共通理解を図り、系統的に取り組めるようにする。(宿題の出し方・評価の仕方など)
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○おおむね、良好。	□今後とも総合・ふるさと教育を通して、地域の良さを知り、愛着を高めていくとともに、地域課題について知り、主体的に関わっていくようとする児童を育てる。

令和6年度(2024)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立多伎小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

4年生、全体の正答率については、国語は全国平均と同程度、算数は全国平均をやや上回る。
○国語の「情報の扱い方に関する事項」及び「我が国の言語文化に関する事項」の正答率は全国平均を大きく上回る。
●国語の「読むこと」、及び算数の「データの活用」の正答率は全国平均を大きく下回る。
5年生、全体の正答率については、国語も算数も全国平均と同程度である。
○国語の「我が国の言語文化に関する事項」及び算数の「データの活用」の正答率は、全国平均を大きく上回る。
●国語の「話すこと・聞くこと」及び「読むこと」の正答率は全国平均を大きく下回る。
6年生、全体の正答率については、国語は全国平均を大きく下回り、算数はやや下回る。
●国語の「書くこと」、「言葉の特徴や使い方に関する事項」及び算数の「変化と関係」の正答率は全国平均を大きく下回る。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○自分の考えを明確にして書くことの正答率は、高い。 ○ローマ字を正しく読むことの正答率は、8割を超える。 ●物語の内容を正しく読み取ることの正答率は低い。 ●説明文から段落ごとの内容を読み取ることの正答率は約5割。	□物語文の初発の感想と学習後の感想を比較することで、読み取る力の向上をはかる。 □段落の内容を読み取るために、段落ごとにタイトルをつけたり、内容ごとのまとまりを捉えたりする時間を設ける。
	5年	○言語文化に関する事項は正答率が8割を超え、漢字を書くことの正答率は7割に迫る。 ○関心のある事柄や単純な記憶力は全国平均より高い。 ●説明文の読解力については、全国平均より低い。	□宿題や授業等で様々な長文読解問題に取り組む。 □文書に書いてあることから分かることを一つ一つ確認する。。
	6年	●二極化が見られ、上位層が少ない傾向。 ○「情報の扱いに関する事項」の正答率は高い。 ●短答式の問題の正答率は4割程度で、全校平均より低い。 ○昨年の学力調査と比較して、無解答数が減った。	□基礎・基本の定着を図るため、朝学習や授業等の時間を利用してミニテストを行い、定着度を細かく確認する場を設ける。 □国語科に限らず、様々な場面で自分の考えや感想を記述したり、発表したりする活動を行う。
算数	4年	○基本的な四則計算の正答率は、全国平均を大きく上回る。 ○基礎問題、特に大きい数や小数についての正答率は高い。 ●グラフ1目盛りの大きさを正しく読み取ることの正答率は約3割。 ●身近にあるものの重さの単位についての正答率は全国平均を大きく下回る。	□朝活動においてグラフを読み取ったり、分数に関する小テストを実施する。 □問題場面を読み取る際、体を使って量的感覚を表す活動を取り入れる。
	5年	○活用問題の正答率は、全国平均を上回る。 ○グラフ等の読み取りの正答率は9割に迫る。 ●わり算や小数の計算の正答率は全国平均を大きく下回る。	□朝活動においてわり算や小数の計算の復習プリントを実施する。 □授業の導入で前年度の復習をし、苦手意識を減らす。
	6年	○二極化が見られるが、以前より上位層が増加傾向。 ○「数と計算」、「図形」の正答率は、県平均以上、全国平均以下。 ●思考判断表現が低い。 ●短答式、記述式問題が低い。	□少人数授業を行い、より個にあった学習進度・内容にする。 □他教科との関連付けと学習した内容の活用(データを扱う学習等において、算数で学習した内容と関連付けたり、活用したりする。書く学習で学んだことを活用し、思考した内容を順序立てて表現する場面を設ける。)

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○ICT機器を学習に利用しているという回答の割合は全国平均より高い。 ○話し合いで、相手の話をしっかり聞き取っている児童の割合は高い。 ●分かりやすく伝えたり、考えを共有し比べたりするなど、ICT機器活用による学習効果を感じている児童の割合は少ない。 ●話し合いで、自分の考えを進んで話す児童の割合は低い。	□グループワークや意見の共有などをする活動でICT機器を有効的に取り入れる。 □個人思考と学び合いの学習時間の適切な確保に努める。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○宿題をきちんとしている児童の割合が高い。 ●全国の回答と比較すると、授業以外での学習時間は少ない傾向である。 ●読書に親しむ児童の割合は少ない。	□発達段階に応じた適量な宿題と、家庭学習時間のめやすの提示。 □読書時間を確保するため、朝読書や読み聞かせの実施。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○夕食を家の人と一緒に食べている児童の割合は高い。 ●日常、新聞を読む児童の割合は少ない。 ●朝決めた時刻に起きる、夜決めた時刻に寝る、時間を決めてテレビを見るなど生活時間に関する肯定的な回答の割合が低い。 ●自分の力をできる限り伸ばしたいと思う児童の割合が少ない。	□学級活動や道徳を中心に生活時間についての指導を行う。 □「多伎っ子ウィーク」の取り組みを継続して行う。

令和6年度(2024)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立湖陵小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○全国学力調査の結果、国語の「書くこと」の平均正答率が、全国の平均正答率と比較すると、大きく上回っていたことから、指導の成果が表れていることがうかがえる。
○学習状況調査の結果、「教科の学習が大切である」「学習が役立っている」「学んだことを生かそうとしている」「友達や周りの人の考えを大切にして課題解決に取り組もうとしている」など、主体的に取り組もうとする回答の割合が全国より上回っている。
●国語、算数ともに、求め方を説明したり、文章を読み解いて考えを書くなどの記述による解答の問題に課題がみられる。
●教科や領域、観点別に見ると、学年により課題が異なる。児童の実態に応じた授業改善が求められる。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○「話すこと・聞くこと」に関する平均正答率が全国平均正答率をやや上回っている。 ●教科の平均正答率が全国平均正答率より下回っている。 ●「書くこと」の記述問題の平均正答率が全国平均正答率を下回っている。	□学習した漢字や言葉を積極的に使って定着を図る学習活動を増やす。 □読み取りの速さや正確さをより向上させるように指導の仕方を工夫する。 □書くことに慣れるように、授業や宿題で短文を課題として、ポイントを絞って指導をする。
	5年	○主体的に取り組む態度の平均正答率は全国平均正答率と同程度である。 ●教科の平均正答率が全国平均正答率よりやや下回っている。 ●「読むこと」に関する平均正答率が全国平均正答率より大きく下回っている。	□段落の構成や登場人物の気持ちの変化を意識して読み取る指導を重ねる。 □読むことに関する学習プリント等を家庭学習等で定期的に取り入れる。
	6年	○教科の平均正答率が全国平均正答率と同程度である。 ○「書くこと」の平均正答率が全国平均正答率を大きく上回っている。 ●文章を正しく読み取ったり、問題文と選択肢を結び付けて考えたりする問題が全国平均正答率を大きく下回っている。	□自分に必要な情報を読み取る力を高めるために、文章と図表を結び付ける活動などを取り入れる。
算数	4年	○図形領域が全国平均正答率を上回っている。問題別では「□を使った式」「円と球・三角形」の問題が全国平均を上回っている。 ●教科の平均正答率が全国平均正答率より下回っている。 ●「数と計算」に関する平均正答率が全国平均を下回っている。	□計算の速さと正確さを向上させるよう、計算練習を日常の課題にする。 □問題文を正しく読み取れるように、見当をつける、図にしてみる、見直しをする等、具体的なやり方を指導し、意識づけをする。 □既習事項を使って問題を解く習慣をつけるため、前学年の復習をして定着を図る。
	5年	○教科の平均正答率が全国平均正答率と同程度である。 ○主体的に取り組む態度の平均正答率が全国平均正答率をやや上回っている。 ●「数と計算」に関する平均正答率と「変化と関係」に関する平均正答率が全国平均正答率より大きく下回っている。	□小数や分数の計算など繰り返し練習し、定着を図る。 □問題場面を図で表した関係を式にしたり、式に表した関係を図で表したり、図や式の意味を言葉で説明したりする活動を大切にして指導する。
	6年	○教科の平均正答率が全国平均正答率と同程度である。 ○データの活用については全国平均を大きく上回っている。 ●文章を読み解いて考え、考えを書く問題については全国平均を大きく下回っている。	□解答に必要な情報を整理したり、式の意味を考えて図にしたりする活動を繰り返し取り入れ、定着を図る。 □既習事項を使って思考する時間を取ったり、「めあて」に対してわかったことを自分で考えて表現したりする活動を増やす。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「めあて」を明確にし、ゴールの児童の姿をイメージした授業を行うことにより、児童は主体的に学習しようとしている。 ○話し合いの場面で、お互いに協力しながら課題の解決に取り組もうとする児童の割合が高い。 ●学習状況調査の結果より、学んだことが定着していない内容が見られる。	□単元を通して身につける力を明確にし、「めあて」と「振り返り」を大切に授業に日々取り組む。 □学習したことを他教科で活用したり、既習内容を繰り返し指導したりすることにより、定着を図る。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○学習したことを今後の学習で活用しようとする児童の割合が高い。 ○音読や宿題、自主学習に真面目に取り組む児童が多い。 ●家庭学習や読書の取組に個人差がある。	□学んだことが定着するために宿題の内容を工夫したり、目的意識をもって取り組むことができるような自主学習の仕方を指導したりする。 □家庭と連携して読書に親しむことができるよう、親子で一緒にする「家庭読書」に全校で取り組む。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○地域の「ひと」「もの」「こと」を活用した学習に意欲的に取り組もうとする児童が多い。 ○地域の行事に参加するなど、進んで地域に関わろうとする児童が多い。 ○進んであいさつをする児童が増えた。	□総合的な学習の時間や生活科等の学習において経験を豊かにし、情報を活用する活動を充実するとともに、国語や算数の学習で学んだ力を生かすようにする。 □学習の様子を「学校・学級・学年通信」やブログで発信する。

令和6年度(2024)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立大社小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

《国語》 ○4, 5年生は、指定された条件に沿って文章を書くことの正答率が昨年度より上がっており、書く機会を増やして取り組んだ成果と考えられる。 ●校内の平均正答率が全国平均をやや下回っている。4, 6年生は、漢字の読み書きの平均正答率が低く、5年生は読み取りの平均正答率が低いことから、語彙力に課題があると考えられる。 《算数》 ○4年生は全国平均正答率を大きく上回り、5年生もやや上回っていることから、基礎的な学力がついてきていると考えられる。 ●6年生が全国平均正答率をやや下回っている。内容によって正答率の差が大きく、個人差も大きい。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○話の内容を開き取ることや、説明文の内容を読み取ること、調べたことをもとに文章を書く力は、全国平均正答率を大きく上回る。 ●漢字を書くことや読むことが全国平均正答率を大きく下回る。	□新出漢字の練習において、用例や熟語などの練習をしていく。 □作文の学習で、習った漢字を使うように指導したり、漢字テストでひらがなだけの文章を漢字に直す問題を出したりする。
	5年	○話の要点をとらえて聞くことや、漢字の読み書き、文章を書くことは全国平均正答率を大きく上回る。 ●物語文や説明文を読み取ることの平均正答率が、全国平均を大きく下回る。	□叙述をもとに、話し合ったり説明したりする活動を多く設定する。 □段落内での叙述の役割をとらえるため、重要な部分に線を引いて段落相互のつながりを説明する活動を行う。
	6年	○物語文を読む問題のポイントが全国平均をやや上回っている。 ●指定された条件に沿って文章を書くことに、課題がある。書く領域での無解答率が高い。 ●漢字を書くことが全国平均正答率を大きく下回る。 ●時間内に終わらなかった児童が多い。	□文章を読んで学んだことを自分に置き換えて考え、感想や自分の立場の考えを書く活動をする。 □作文の学習で、習った漢字を使うように指導したり、漢字テストでひらがなだけの文章を漢字に直す問題を出したりする。 □文章を書く際に時間設定をし、時間内に考えをまとめることを意識させる。
算数	4年	○おおむね全国平均正答率を上回っており、特に□を使った式や割り算については、大きく上回っている。 ●表とグラフの問題の平均正答率が全国より大きく下回っている。	□グラフの学習では、一目盛りがいくらかのかをきちんと考えて問題を解くようにする。 □立式の仕方を順序立てて説明させる。
	5年	○角度の読み取りや公式の使い方全国平均正答率を大きく上回っている。 ●数量の大小・グラフの目盛りの大小など、基礎的な数量の感覚について課題がある。 ●小数の除法などで基礎的な計算の手順の定着に課題がある。	□学習した言葉や式を使って説明する話し合い活動を行い、分かったことについて自分の言葉でまとめが書けるように進める。 □既習内容の復習を自学メニューや小テストで繰り返し練習し、基礎的な計算が確実にできるようにする。
	6年	○基礎的な計算問題を正しく解くことができる。 ●問題文や図の中から解答に必要な情報を使って考えることに課題がある。(聞かれていることが理解できていない。) ●公式が身につけていない、もしくは間違えて覚えているため、誤答につながっている。 ●個人差が大きい。	□複数の教員による指導や習熟度別の学習で、個に応じた指導をする。 □学習を通して分かったことや、自分なりのまとめを書く際、キーワードなどの条件を満たして書く経験を積み重ねる。 □既習内容の復習を自学メニューや小テストで繰り返し練習し、基礎的な計算が確実にできるようにする。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○授業で分からないことがあれば先生に質問していると回答した児童の割合が全国平均よりやや高い。 ○伝えたいことを明らかにして文章を書いていると回答した割合も高い。 ●話し合いで自分の考えを積極的に話していると回答した割合はやや低い。 ●新聞記事などを自分の考えと比べながら読んでいと答えた児童の割合が全国平均を下回っている。	□校内研究で説明文の授業研究を進め、つきたい力を明確にした授業構成や児童に必要感のある学習課題の設定などの工夫をする。 □少人数で基本的な話型に沿った話し合い活動を通して、自分の知りたいことや伝えたいことを相手に伝える経験を積み重ねたり、語彙を増やしたりする。 □新聞記事を読むワークシートを定期的に取り入れる。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○国語や算数の宿題をきちんとしていると回答した児童の割合は、全国平均よりやや高い。 ●家庭学習の時間の平均値は全国と同程度だが、予習をしている児童の割合はやや低い。自分で勉強の内容を決めて取り組むことには個人差が大きい。 ●本(漫画や雑誌を含まない)や新聞を読んでいると回答した児童の割合は、4, 5年が全国平均より低く、6年はやや高い。	□「家庭学習の手引き」を土台に、家庭との連携を図りながら、予習内容や良い自学ノートの紹介など、具体的に指導する。 □授業と結びついた効果的な家庭学習になるよう内容を工夫する。 □週末や長期休業に、「家庭読書」や新聞記事を親子で読む家庭学習を全学年一斉に実施する。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○親や先生から認められていると回答した児童の割合が全国平均より高い。 ○自分の住んでいる地域が好き、地域の行事に参加していると回答した児童の割合が全国平均より高い。 ○自分で時間を決めてテレビを見ていると回答した児童の割合が全国平均より高い。 ●朝食をきちんと食べていると回答した児童の割合がやや低い。 ●将来の夢や目標を持っている児童が全国平均を大きく下回る。	□生活科や総合的な学習の時間等において、引き続き地域のひと・もの・ことにかかわる学習を進め、児童のふるさとへの愛着を育てる。 □町内保幼小中連携によるチャレンジ週間を中心に、糧や地域と連携を図りながら、基本的な生活習慣を身につけるよう取組を続けていく。

令和6年度(2024)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立荒木小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 【国語】○段落構成を意識して文章を書くなど、基礎的な文章の書き方は理解している。
 ●全体を読んでイメージすることや自分の考えを明確に表現することに課題がある。
- 【算数】○基礎・基本の内容は理解している。
 ●文章問題を解くことや理由を述べて説明することに課題がある。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○聞き取りについての正答率が全国の平均正答率と同程度。 ●主語と述語、ローマ字等の「言葉の学習」の正答率が約5割。 ●「調べたことをもとに文章を書く」といった文章の構成を考えたり、自分の考えを明確に書いたりする内容の正答率が全国平均正答率を大きく下回っている。	□主語述語の関係をプリントで復習したり、ローマ字はタブレットのタイピングソフトを利用して慣れる取り組みをしたりする。 □新出漢字を使った短作文や、毎週末に日記を書く等、書く活動に慣れる。 □終礼時に今日のよかったこと等について日直のスピーチの時間を設定する。
	5年	○知識・技能については、全国の平均正答率と同程度。 ○段落の役割の理解と2段落構成で書くことができる。 ●全体を読んでイメージすることや言葉の言い換え等を読み取ること。 ●条件付きの記述問題に答えること。	□条件を与えて短い文章を書く活動を繰り返し行い、基本的な記述力を高める。 □めあてをもたせて読んでいく等、授業を工夫する。 □分からない語句を自分で調べさせて語彙を増やす。
	6年	○目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるような書き表し方を工夫すること。 ●漢字を文の中で正しく使うこと。 ●物語文を読み、人物像や全体像を想像して読むこと。	□意味調べや読書、漢字を使って文章を書くこと等により、語彙を増やす取組を進める。 □短いお話や新聞記事等を読んで内容を捉える練習を取り入れる。
算数	4年	○四則計算や表と棒グラフ、時と時刻の学習内容は定着しており、全国平均正答率と同程度あるいは大きく上回っている。 ○二等辺三角形の作図は、全国平均正答率を大きく上回っている。 ●大きい数・小数・分数が全国平均正答率を下回っている。 ●わり算の文章問題や、理由を説明して解答する問題が全国平均正答率を大きく下回っている。	□算数の学習を学年で揃え、習熟度別に3つのグループに分かれて発展問題に取り組んだり、具体物や日常生活を想起したりするなど、個に応じた学習になるようにする。 □全教科において文章を読み内容を把握する力や、文章に表す力をつける。
	5年	○知識・技能については、全国の平均正答率と同程度。 ○基本的な内容は理解している。 ●思考・判断・表現については、全国・市の平均正答率を大きく下回っている。 ●求める方法、理由の説明や考察を記述すること。	□学級全体やグループでの話し合い等、自分の考えを言葉で説明する場面を設ける。 □量感を培っていきけるように経験・体験を伴った学習にしていく。
	6年	○県の平均正答率と同程度。 ○無解答率が低い。 ●速さを基に道のりと時間の関係を考察すること。 ●数量関係を捉えて式に表すこと。 ●言葉や数を用いて理由を述べること。	□問題場面の数量関係を捉えることができるよう、図や数直線を使って解く活動を多く取り入れる。 □自分の考えをペアやグループなどで伝え合う活動を取り入れる。 □基礎・基本を丁寧に指導し、定着を図る。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○将来の夢や目標をもっている児童が多い。 ○どの学年も、授業や学校生活では、友達の周りの人の考えをしっかりと聞いている児童の割合が全国平均を上回っている。 ●どの学年も、分からない言葉や詳しく知りたいこと等を自ら調べる児童の割合が全国平均を下回っている。 ●どの学年も、授業でわからないことがあれば先生に質問をしている児童の割合が全国平均を下回っている。	□自分の考えを持ち、ペアやグループ等の少人数で発言する活動を継続して取り入れる。 □辞書やタブレットを活用するなど、わからないことや知りたいことをすぐ調べられるような環境づくりや声かけを行う。 □話し合い活動の中で、わからなかったことや難しかったことを取り上げ、全体に共有する時間を設けるなど、質問をしやすい雰囲気をつくる。 □めあてと振り返りを意識した授業実践を継続して行う。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○6年生は学校の授業時間以外に、普段1時間以上勉強している児童の割合が、全国・県平均を上回っている。 ●学校の授業時間以外にPC・タブレットなどのICT機器を勉強のために使っている児童が少ない。 ●どの学年も、新聞や本を読んでいる児童の割合が低い。	□家庭学習でタブレットを積極的に活用することで、個に応じた学習に取り組めるようにする。 □読解力を高めるワークシートや新聞記事を活用したワークシートに取り組む。 □司書教諭と連携を図り、積極的に図書館活用をする。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○基本的な生活習慣が身につけている児童の割合が多い。 ○自分が住んでいる地域が好きな児童が多い。 ●地域の行事に参加している児童が少ない。 ●ゲームや動画視聴等、平日メディアに2時間以上触れる児童の割合が約5割。	□学校支援ボランティアの方との学習を生かして地域とのつながりを意識させる。 □メディアに触れる時間やルールについて委員会活動で周知したり、家庭に協力をお願いしたりする。

令和6年度(2024)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立遙堪小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 4年生は、国語、算数ともに、市平均正答率・全国平均正答率を大きく下回った。
- 5年生は、国語、算数ともに、市平均正答率・全国平均正答率を大きく下回った。
- 6年生は、国語、算数ともに、県平均正答率・全国平均正答率をやや上回った。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○「文章を書く」で「自分の考えを明確にして文章を書く」はよくできている。 ○「物語の内容を読み取る」で「登場人物の様子を叙述を基に捉える」はよくできている。 ●全ての領域別評価項目で市・全国平均正答率を下回っている。 ●「言葉の学習」「説明文の内容を読み取る」で、課題がみられる。	□ローマ字の復習や主・述の関係の理解が高まる学習を行う。 □新聞の記事の読み取りを行い、自分の考えを持ったり、必要な情報を読み取って文章に考えをまとめたりする学習を行う。 □定期的に書き取り会を実施し、漢字の読み・書きの定着を図る。
	5年	○領域別評価項目「我が国の言語文化に関する事項」で、市平均正答率・全国平均正答率を上回っている。 ●「物語の内容を読み取る」で、課題がみられる。 ●記述式の問題の正答率が低い。 ●「漢字を書く」、「説明文の内容を読み取る」に課題がある。	□文章からキーワードを抜き出したり、表にまとめたりするなど、要約スキルを高める学習を繰り返し行う。 □文章(長文)を読む機会を増やしたり、本・新聞記事などに触れる時間を増やしたりして、限られた時間で読み、内容を理解する学習を継続する。
	6年	○ほぼ全ての領域別評価項目で全国平均正答率を上回っている。 ○記述式の問題形式で答える問題は、よくできている。 ●領域別評価項目「情報の扱い方に関する事項」で全国平均正答率を下回っている。 ●領域別評価項目「話すこと・聞くこと」は全国平均正答率を上回っているが、数値としては他の項目より低い。	□学習課題に沿って自分の意図を持って必要な情報を集め、それを分類し条件に沿った形(文章や新聞など)にまとめる学習の機会を増やす。 □対話の話型を活用しながら、相手意識・目的意識を持って伝え合う活動を行う。
算数	4年	○「かけ算」は市・全国平均正答率に近い。 ○「わり算」「大きい数・小数・分数」の計算処理はできている。 ●全ての領域別評価項目で市・全国平均正答率を下回っている。 ●問題形式では、記述式の問題の正答率が低い。	□個人差に応じた個別支援や補充学習の時間(わくスタ)に、基礎となる計算力をつける学習を繰り返し行う。 □具体物やICTを活用してイメージを高め、学習の理解と意欲向上を図る。 □算数用語の教室掲示を行い、既習事項が確認できるようにする。 □自分の考えを書いて伝える機会を増やす。
	5年	○「角の大きさ」「簡単な場合についての割合」は市・全国平均正答率に近い。 ●全ての領域別評価項目で、市・全国平均正答率を大きく下回っている。 ●「平行四辺形の作図」では、学習内容の定着が不十分である。	□個人差に応じた個別支援、個別最適な学びの工夫、既習内容の学び直しを行い、基礎となる計算力を身に付ける。 □図形の作図など、理解度の低い領域の練習問題をしっかり行い、定着を図る。
	6年	○全ての領域別評価項目で全国平均正答率を上回っている。 ●領域別評価項目では、他の領域と比べると「変化と関係」の正答率が低い。 ●評価の観点から見ると、思考・判断・表現の正答率が低い。 ●問題形式では、他の形式と比べると記述式の問題の正答率が低い。	□自分の考えをノートに書いたり他者に説明したりする時間を確保し、論理的思考力の育成を目指す。 □学習課題に必要な情報を見つけ、それらを整理して答えを導く学習問題に取り組み、考え方を伝え合う時間や場を意図的に作る。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○授業では、話をしっかり聞いてきちんとノートをとっていると答えた児童の割合が高い。 ○話し合いで相手の話をしっかり聞いている児童の割合が高い。 ○集中して勉強していると答えた児童の割合が高い。 ●授業で、分からないことがあれば先生に質問をする児童の割合が低い。 ●勉強に「辞書」「図書館」を利用している児童の割合が低い。	□追究や解決のための見通しがもてるような教材提示や教師の働きかけを行う。 □習得・活用・探究の過程を意識して単元を構成する。 □めあて・まとめ・ふりかえりを意識した板書型指導案を作成し、個に応じた支援や授業改善に取り組む。 □計画的な学校図書館を活用した学習や積極的に辞書を活用する学習を行う。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○家庭では、進んで勉強していると答えた児童の割合が高い。 ●家庭学習では、国語より算数を選ぶ傾向にある。 ●答案の見直しや予習・復習をしている児童の割合が低い。 ●家庭での読書をしている児童の割合が低い。	□家庭学習週間(チャレンジ週間)を活用して、家庭学習の重要性や具体的な取り組み事例を家庭に伝える。 □家庭学習やメディアとの接触時間などを含めた基本的な生活習慣の定着を図るため、継続的にチャレンジ週間に取り組む。 □個や学年に応じた家庭学習内容や学習方法を工夫する。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○地域や学校が好きと答えた児童の割合が高い。 ●地域の行事に参加していると答えた児童の割合が低い。 ●家の手伝いをしている児童の割合が低い。	□コミセンや地域の関係機関と連携し、地域行事への参加や地域のひと・こと・ものに関わる機会を促す。 □家庭における保護者の学習参加・関わり方について、学級通信や懇談等で呼びかける。 □学校での様子を家庭に伝え、児童が学校での出来事を家庭で話すきっかけとなるようにする。

令和6年度(2024)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立荘原小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○第4学年は、国語科において、出雲市平均を大きく上回り、全国平均を上回っている。領域別でみると「我が国の言語文化に関する事項」「書くこと」については、出雲市平均、全国平均を大きく上回っている。算数科においては、出雲市平均、全国平均を大きく上回っている。領域別でみると「図形」「測定」については、出雲市平均、全国平均を大きく上回っている。

○第5学年は、国語科において、出雲市平均、全国平均と比べ同程度である。領域別でみると「書くこと」については、出雲市平均、全国平均に比べ大きく上回っている。算数科においては、出雲市平均を大きく上回り、全国平均を上回っている。領域別でみると「図形」において、市平均、全国平均を大きく上回っている。

●第6学年は、国語科、算数科において、島根県平均、全国平均を下回っている。

○第6学年国語科の学習指導要領の内容「知・技(2)情報の扱い方に関する事項」において、全国平均と同程度である。算数科の領域「データの活用」については、県、全国平均と同程度である。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○全国平均を上回っている。 ○領域別でみると「我が国の言語文化に関する事項」「書くこと」については、全国平均を大きく上回っている。 ●読むこと(物語文)において、全国平均を下回っている。	□単元終末では、視点をもって振り返りをし、友だちと感想交流をする。 □授業の終盤では、その時間に学んだことやキーワードを使って、授業のまとめと振り返りを実施し、子どもの語彙を増やす。
	5年	○出雲市平均、全国平均と比べ同程度である。 ○領域別でみると「書くこと」については、出雲市平均、全国平均に比べ大きく上回っている。 ●「読むこと」「話すこと」「聞くこと」において、平均を下回っている。	□キーワードや視点を明確にした授業を展開する。(接続詞、会話、行動等) □意見文や感想等、学習したことに対して自分の考えを表現する機会を重視する。
	6年	○内容「知・技(2)情報の扱い方に関する事項」において、全国平均と同程度である。 ●多くの情報の中から、問われていることが何かを判断すること。 ●条件を理解し、根拠をもって文章を引用し、自分の考えを述べること。	□書くことの機会を増やす。(各教科のまとめや振り返りなどの場面や行事が終わった後の振り返りの作文など。) □ドリル学習と作文学習のバランスを変えていき、作文を書く機会を増やす。
算数	4年	○全国平均を上回っている。 ●「あまりの処理」「量的感覚」において、全国平均を下回っている。	□問題文を読み込み、問題の場面、聞かれていることや答えることをきちんとイメージできるようにする。その上で、計算したことをどう処理するかを考える学習場面をつくる。 □長さや重さにおいて、量的感覚を味わえる活動を充実させる。自分が調べたいものを決めて、測定活動を行ったり、だいたい量の感をはたらかせ検討をつける活動を設けたりする。
	5年	○図形が全国より大きく上回っている。 ○全体的に平均を上回っている。 ●概数に対応する数の範囲が全国平均より下回っている。 ●1目盛りの大きさがちがう2つのグラフをもとに違いを指摘するところが目標値から大きく下回っている。	□お互いの意見を出し合う場を積極的に授業の中で設定する。 □グラフの読み取りができるように、朝活動の時間などを使い繰り返し練習に取り組む。
	6年	○領域「データの活用」については、全国平均と同程度である。 ○昨年度の学力調査の結果と比較すると、知識技能が国の平均との差が縮まっている。 ●教科全体として、全国平均を大きく下回っている。知識技能はやや下回り、思考判断表現は大きく下回っている。	□授業で考える時間を確保し、考え方の共有の時間を充実させる。 □様々な授業や行事において、自分の考えを表現する機会を増やす。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○授業で話をしっかり聞き、きちんとノートをとっていること。 ●見直しをすることや別の解き方を考えること。 ●自己肯定感、認められていると感じること。	□授業で友だちと意見を交流する機会を意図的に設け、多様な考えに触れるようにする。 □一人一人を認めて伸ばす声がけを継続する。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○宿題にきちんと取り組むこと。 ●予習・復習をすること。	□メニューを提示するなど、自学の仕方を工夫する。 □高学年は、予習の仕方も指導し、習慣化を図っていく。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「地域が好き」であること。 ●メディアのルールに関すること。	□生活習慣(早寝・早起き・朝ごはん)について、家庭へお便り等で呼びかける。 □メディアのルールについて学級活動で学年に応じた指導をする。

令和6年度(2024)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立西野小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○国語において、物語文の叙述をもとに内容を捉えたり、登場人物の心情を感じ取ったりすることは全国平均と同程度か上回っている。
○4・6年生の国語において、漢字を書く問題での正答率が全国平均を上回っている。
○算数において、数のしくみや相対的な大きさ、四則計算などの基礎的な問題については、全国平均より上回っている。
●どの学年においても、国語において文章の長さや段落など構成を考えながら文章を書くことにおいて、全国平均より下回っている。
●算数では、どの学年でも、言葉や式などを用いて理由を説明する問題において、全国平均より下回っている。
●算数では、まとまった文章や資料から意味を理解して取り組む問題に課題がみられる。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○話し合いの内容を聞き取る問題では全国平均を上回っている。 ○漢字を書く問題では、全国平均を大きく上回っている。 ●主語と述語の関係やローマ字など言葉の学習の問題が全国平均を大きく下回っている。	□タブレットを用いたタイピング練習を行うことで、日常的にローマ字に触れる機会を増やす。 □おすすめの本リストの活用、ブックトークの実施等、図書館と連携した取り組みを行い、長文の本を読んだり、読書量を増やしたりすることができるようにする。
	5年	○叙述を基に段落相互の関係を捉える問題では全国平均を大きく上回っている。 ●文章を書く問題が全国平均を大きく下回っている。 ●話の中心が明確になるよう話の構成を考える問題で、全国平均を大きく下回っている。	□日記や作文を書く際、長さや段落等の条件を提示し、その条件に沿って書く練習を繰り返すことで、条件に合わせて文章を書く力をつける。 □国語や総合的な学習の時間において、自分の考えを話す機会を意図的に設ける。また、話の中心が明確になっているかという視点で原稿を見直してから発表に臨めるようにする。
	6年	○文章やメモなど複数の資料をもとにして、それらを関連付けて考える問題において、全国平均を大きく上回っている。 ○物語の全体像や登場人物の心情などについて考える問題において、全国平均を上回っている。 ●文字数や取り入れる内容などの条件に合わせて、考えを書く問題は、全国平均と同程度だが他の領域に比べるとやや低い。	□国語科の書く単元や社会科などで、キーワードや条件を設けて、自分の考えをまとめる機会を増やし、条件内で書くことへの抵抗を減らす。 □文章やメモなどの資料を関連付けて考えることはできているので、引き続き図書館活用を推進するとともに、算数・社会科、総合的な学習など他教科での資料活用能力と関連づけて指導を行う。
算数	4年	○整数の相対的な大きさに関する問題が全国平均を大きく上回っている。 ○2桁×2桁の問題が全国平均を大きく上回っている。 ●小数、分数の基本的な概念の問題や、身の周りの物の重さの単位についての問題が全国平均を大きく下回っている。	□単元の学習前後で前学年までの復習を行い、既習事項の更なる定着と、新しい学習内容の定着を図る。 □文章問題では、答えが出た後なぜそうなるのかを確かめ、意味理解ができるようにする。
	5年	○億と兆や、小数を10倍した数を求める問題で全国平均を大きく上回っている。 ●伴って変わる2つの数量関係を考える問題が全国平均を大きく下回っている。 ●記述する問題の正答率が約1割となっている。	□簡単な数に置き換えて考えることを繰り返し行い、計算のきまりや伴って変わる2つの数量関係を考える際に活用できるようにする。 □文章やメモなどの資料を関連付けて考えることはできているので、引き続き図書館活用を推進するとともに、算数・社会科、総合的な学習など他教科での資料活用能力と関連づけて指導を行う。
	6年	○基本的な計算問題や計算のきまりを利用した問題において、全国平均を大きく上回っている。 ●速さについて、判断した理由を2つの条件をもとに言葉や数を用いて説明する問題において、全国平均を大きく下回っている。 ●3つの資料をもとに、必要な数値を読み取り、判断する問題において、全国平均より大きく下回っている。	□授業中や計算会の問題の中で、算数用語を使う、条件をもとに答えるなど、理由や過程を言葉や数を用いて説明する機会を増やし、論理的に考える力をつける。 □タブレットドリルを活用し、計算の技能だけでなく、基礎的な用語や知識、数学的な見方・考え方への理解を深める。 □授業の中や朝学習で、複数の資料から情報を読み取る問題に取り組む機会を増やし、多角的に考えることができるようにする。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○4・5年生では「学校のきまりを守っている」「先生の話をしっかり聞いている」と回答した児童が全国平均を上回っており、学習規律の定着がみられる。 ○5・6年生では「将来の夢や目標をもっている」と回答した児童が全国平均を上回った。4年生での自分の将来について考える学習の成果だと考えられる。 ●全学年で、分からないことを質問できる児童の割合が全国平均を大きく下回っている。また、分からない言葉を辞書で調べる児童の割合も低い。 ●全学年でICTを活用した学習を頻繁にすると回答した児童が全国平均を下回っている。	□授業中に質問する場を設けたり、分からないことを質問できた児童を褒めたりし、気軽に分からないことを聞くことができる雰囲気づくりに努める。 □分からない言葉を辞書を使って調べる時間を設けたり、タブレットPCに辞書アプリを入れたりして、辞書に親しみ、語彙が広がるようにする。 □タブレットPCの効果的な活用方法について、職員研修を行い、様々な授業の中で楽しみながら思考力や表現力などを身につけることができるようにする。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○全学年で、「自分で勉強の計画を立てて勉強している」と回答した児童が全国平均を大きく上回っている。どの学年も音読、自主学習などの家庭学習を記録することにより、計画を立てて取り組む家庭学習の習慣が身についていると考えられる。 ●どの学年も「本を読んでいる」「新聞を読んでいる」と回答した児童が全国平均を大きく下回っている。	□学校で本や新聞に触れる機会をつくり、本や新聞のよさや楽しさを味わうことができるようにする。 □学級で一緒に本を借りる、読書記録を記入するなど学校での読書に関する取組を充実させるとともに、家庭に向けても読書の啓発活動を行う。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○朝食をきちんと食べる児童や朝食を家の人と一緒に食べる児童の割合が全国平均を上回っている。家の人と一緒に朝食をとることで、一日を落ち着いて前向きに過ごすことができていると考えられる。 ○どの学年でも「自分の住んでいる地域がすき」という回答が全国平均を上回っている。社会科で地域のよさについて学習した成果と考えられる。 ●4・5年生では、家の手伝いをする、地域の行事に参加していると回答した児童の割合が全国平均を大きく下回っている。 ●全学年で算数で学習した知識を家の人に話す、計算や図形を使ったパズルで遊ぶ、算数や理科の学習を普段の生活で活用するなど回答した児童の割合が全国平均を大きく下回っている。	□家庭科や学活の学習と関連を図り、家族の一員として働くことのよさを感じさせたり、実践する意欲を育てたりし、積極的に家の手伝いをするようにする。 □総合的な学習の時間や社会科の学習を一層充実させ、地域を誇りに思う気持ちを高めたり、地域の方と関わることのよさを味わったりすることにより、積極的に地域に出かけたり行事に参加したりすることへとつなげる。 □家庭学習の工夫や学級・学年だより等の活用により、学習内容を家庭で話したり、家庭でパズルに親しんだりする機会につなげ、学ぶことの楽しさを感じることができるようにする。

令和6年度(2024)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立中部小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 算数の基礎的・基本的な計算の力が身に付いている児童の割合が高い。
○規則正しい生活ができていない児童や宿題をする習慣が身に付いていない児童の割合が高い。
●国語の要約したり自分の考えを表したりすることや、算数の文章問題を読解することに課題がある。
●自分で工夫して家庭学習に取り組む児童の割合が低い。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○漢字を読んだり書いたりすること。 ●要約をすること。 ●自分の意見と理由を書くこと。	□説明文の学習において、その段落のキーワードを決められた文字数で書き抜いたり、教科書の手引きを参考にして視点を明確にした上で要約の学習に取り組んだりする。 □段落に分けて自分の意見と理由を書く活動に取り組む。
	5年	○物語を読み取り、他者の考え方に共有すること。 ●修飾語についての理解。 ●漢字を書くこと。	□言葉に関する学習の際に、指導の視点を明確にして達成状況を確認し、できたことを褒めたりフォローしたりする。また、週末に言葉のプリントを宿題として出し、学習内容の定着を図る。 □書取会で副教材を活用し、範囲を限定して実施の頻度を増やすことで、漢字の着実な定着を図る。
	6年	○無回答の人数が少なく、回答しようとする意欲が見られる。 ●2つの資料を比較して、要約したり自分の考えを表したりすること。	□漢字の定着のため、毎時間の初めに3問程度の小テストをするなど、限定した範囲で繰り返し漢字の練習ができるようにする。 □どの学習でも、資料や問題文に線を引いたり、丸をつけたりする練習をする。
算数	4年	○たし算・ひき算・かけ算など、基本的な計算。 ●長さ・重さ、表とグラフ、文章問題を読み取ること。	□授業のはじめの短い時間で基礎基本を押さえる取組(フラッシュカードを用いた学習など)を行う。 □授業中、ペアやグループで学習したことを説明し合う活動を増やし、既習事項の定着を図る。
	5年	○分数の計算は、全国平均と同程度の正答率。 ●基礎基本の計算をすること。 ●活用問題を解くこと。	□5分(基礎計算)＋40分(本時の内容)の授業構成の学習により、基礎基本の計算力を高める。 □答えを確かめる方法を指導し、答えを吟味することの定着を図る。
	6年	○数量感覚をいかにす問題の正答率が高い。 ●文章問題を読解すること。 ●必要な情報を選択・抽出すること。	□低・中・高それぞれの段階に応じて(図、式、言葉)などの視点をもたせて授業に取り組む。 □週1回、既習の定義や公式を復習する時間を作る。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○算数の授業がわかる、意欲的に取り組んでいると回答した児童の割合が高い。 ●自己肯定感に関わる質問について、全国を下回る。 ●話し合いで、自分と違う考えについて考えたり、新たな考えに気づくことができた児童の割合が低い。	□児童の自己肯定感を高めるために、教員が児童の話をよく聞いたり、よい姿を具体的に褒めたりする。また、月に1回程度友達の良いところを伝える機会を設ける。 □主体的に対話ができるよう、グループ分けの工夫を行う。 □自分で課題解決することができるよう、わからないことについて調べる活動を組み入れる。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○宿題をする習慣が身に付いている児童の割合が高い。 ●新聞を読んでいる児童の割合が全国平均を下回る。 ●自分で工夫して家庭学習に取り組む児童の割合が低い。	□学習についての自分の強みと弱みを書き出し、1週間の自主学習の計画を立て取り組めるようにする。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○規則正しい生活ができていない児童の割合が高い。 ●地域の役に立つことをしたいと回答した児童の割合が低い。	□地域社会とのかかわりが増えるように、社会科や生活科で地域社会について学習を深める。 □終礼や、掃除、係活動、委員会などで、友達のやさしさや頑張りを認める活動に取り組む。また、教職員が公平な評価ができるように、情報収集とその共有に努める。 □児童の頑張りを見つけることができるように、友達の頑張りを書いて担任に渡すカードを設置する。

令和6年度(2024)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立出東小学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

全国・市平均正答率と比較すると、学年ごとに教科によって、下回るもの、同程度のもの、上回るものがある。4年生は、国語・算数ともに市平均正答率を大きく上回り、全国平均正答率も上回っていた。5年生は、国語・算数ともに市平均正答率を上回っており、国語では全国平均正答率と同程度、算数では全国平均正答率をやや上回っていた。6年生は、国語が全国平均正答率を下回り、算数は大きく下回っていた。

【国語】○学習した漢字を正しく読むこと。

●叙述をもとに文章の内容を捉えたり、構成を考えて自分の考えを話したり書いたりすること。

【算数】○どの学年も意欲をもって取り組むこと。

●グラフや表などを正しく読み取ること。

●数量関係を捉えて式に表したり、正しく計算したりすること。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○意見の共通点や相違点を考えながら聞くこと。 ○国語辞典の使い方を理解すること。 ○自分の考えや理由を明確にして書くこと。 ●学習した漢字を正しく書くこと。 ●叙述をもとに読むこと。	□朝学習などで繰り返し漢字練習を行う。 □日常から書く活動において既習の漢字を使うことの理解を徹底する。 □物語教材では叙述に立ち返って心情や場面の様子を考える場合のノート、ワークシートなどを工夫する。
	5年	○漢字を正しく読み書きすること。 ○話の内容を聞き取り、相手の伝えたいことを捉えること。 ○自分の考えを明確にして、理由などを加えて文章に書くこと。 ●自分の意見を要約して構成して書くこと。 ●話の中心が明確になるように、話の構成を考えて話すこと。	□条件を付けて作文する機会を多くの場面で確保する。 □スピーチメモを作成し、それを基にして話をする機会をもつ。
	6年	○読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くこと。 ●目的や意図に応じて、集めた材料や資料を分類、整理したり、関係付けたりして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。 ●物語を読んで、心に残ったこととその理由をまとめて書くこと。	□目的や意図、聞き手の求めていることに応じて、話の内容を整理して表現することについての声かけ、約束を徹底する。 □人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしながら物語を読み、理由を考えて心に残ったところを記述する機会を増やす。
算数	4年	○整数－小数第一位の計算をすること。 ○□を使った加法の式にあった文章問題を選ぶこと。 ●棒グラフから数量を読み取ること。 ●暗算のしかたや分配法則を理解すること。	□日頃から問題をよく読み、問われていることを正確に捉えることを徹底する。 □グラフの目盛りの大きさに目目させ、必ずしも一目盛は1ではないという認識について繰り返し確認する。 □「計算のきまり」の単元や分配法則に関する事項の復習の機会を増やす。
	5年	○四則や()の混じった式の計算順序を理解すること。 ○折れ線グラフを読み取ること。 ○複合図形で面積の求め方や式を表した図を選ぶこと。 ●値を求める方法を説明したり、間違いを指摘したりすること。 ●整数、仮分数、帯分数、真分数の大小比較をすること。 ●3けた÷2けた＝2けた(余りあり)の計算をすること。	□解答や誤答を説明する活動の時間をさらに増やす。 □分数の意味理解を図り、分数と整数、小数の関係を数直線に表す活動を取り入れる機会を増やす。 □小数のわり算(余りを求める、割り切れるまで、四捨五入で概数)を中心に、基本的な計算の練習を行う機会を増やす。
	6年	○数量の関係をとらえ、正しく立式すること。 ●計算に関して成り立つ性質を活用し、計算の仕方を考察すること。 ●除数と商の大きさの関係を理解すること。 ●直径、円周の長さ、円周率の関係について理解すること。 ●除数が小数の計算をすること。	□これまでの既習事項を教室に掲示するなど、本時学習の時に確認できる工夫を行う。 □毎日計算問題に取り組む機会をつくり、計算の仕方の理解、定着を図る。(朝学習の時間やICTの活用) □計算の過程や立式の仕方等をペアやトリオで説明する活動を取り入れる。 □単元テストの解説を行ったり、必要に応じて再テストを行ったりする。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○4・5年生は、自己肯定感(友達や先生から認められている。良いところがある)が高い児童が多い。 ●友達と話し合うとき、自分の考えを進んで話したり、友達の意見を最後まで聞いたりすること。 ●わからないことを質問すること。 ●学習にICTを活用する機会が少ないこと。	□自分の考えを書いたり、話したりする機会を多く持つ。 □説明する力を高めるために、調べたことや考えたことを説明する場面を積極的に設ける。 □だんだんタイムの時間に、テーマやグループ編成の工夫をして、対話の経験を積み重ねる。 □ICT機器を学習に活用する機会を増やす。 □学校行事や児童会活動等を中心に、成功体験や活躍する場を意図的に設ける。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○家庭学習は時間を守ってしっかりと取り組むこと。 ●家庭学習でICTを活用する機会が少ないこと。	□新聞や辞書の使い方を学習し、児童一人一人が調べるときに、新聞や辞書を活用する機会を意図的に設ける。 □積極的に学校図書館を利用したり、読書に興味をもつ活動を取り入れたりとを通して、読書の習慣をつける。 □家庭学習に、ICT機器を活用できる工夫を重ねる。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○睡眠時間や寝る時刻、起きる時刻などの生活習慣はよく身についている。 ○地域の行事に積極的に参加している児童が多い。 ●平日にゲームをしている時間が多い。	□学習内容を吟味し、地域教材を取り入れたり、地域の方とふれあう機会を設けたりして計画を立てて、地域を生かした学習を行う。 □地域のもの、ことを見学する機会や、地域の方を講師に招くなど、学習内容に応じて取り入れ、地域貢献の意識を高める。 □「メディア・生活リズムチェックカード」で児童の生活習慣について把握し、学級活動等で取組の評価や今後の取組について指導支援する。 □「家庭学習調査」で、児童の家庭学習状況を把握し、成果や課題を家庭と学校が共通認識した上で見通しを持って家庭学習に取り組む。